



FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION

30

COMMEMORATING 30 YEARS OF
FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION

and F

公益財団法人
福武教育文化振興財団
設立30周年記念誌





COMMEMORATING 30 YEARS OF
FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION

and F

はじめに

当財団では、文化や教育を通じて地域振興を図るべく、様々な活動を支援してまいりました。最近では過去の伝統を守るだけでなく、新しいことに挑戦するような活動にも多く支援しています。

文化や教育は、人モノその他形のないもので構成されており、長年の歴史の積み重ねでもあります。文化や教育と人とはお互いに作用し合うので、片方だけが育つことはありません。それらを育てるには、過去に知恵を絞って生き抜いた人々の文化も含めて、社会も環境も変わる今を、次の世代に伝えることが必要です。良い文化や教育から良い人が育ち、良い人から良い文化や教育が育っていくような好循環が地域振興であると考えております。

話は変わりますが、盛者必衰、栄えたものが衰えに向かう転機とは何でしょう。現状に満足して、維持することのみに注力し、成長を止めた時ではないでしょうか。

岡山には豊富な教育環境が整っております。かつては教育県として先進的な取り組みを行っていた先人たちの文化や教育も残っています。過去の遺産に頼るだけでなく新しい事に挑戦し、教育県さらには文化県といわれるよう目指したいものです。

当財団も「不易流行」を掲げ、設立当初の理念や伝統を大切にしながらも、新しい試みを積極的に発掘し、支援することで、岡山の文化の発展とともに育っていきたいと考えております。

2017年1月

公益財団法人 福武教育文化振興財団
代表理事理事長 福武純子
代表理事副理事長 松浦俊明

目次

はじめに

福武總一郎	4	山川隆之	48
谷口澄夫	6	石田篤史	50
柏原拓史	8	中野行雄	52
藤井裕也	10	田中雄一郎	54
大島正幸	12	下山宏昭	56
大月ヒロ子	14	森崎岩之助	58
原田謙介	16	福武純子	60
平井優子	18	福武哲彦	62
松本雄吉	20		
菅原直樹	22	福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育 奨励賞——受賞者一覧	64
黒瀬堅志	24	福武文化賞・福武文化奨励賞 ——受賞者一覧	68
加納容子	26	助成の歴史——教育	72
福武總一郎	28	助成の歴史——文化	76
市川伸一	30	オーストラリア・プレ体験留学	78
竹内昌彦	32	講演会・フォーラムの記録	79
佐々木美行	34	福武教育文化叢書の記録	82
中島諒人	36	海の劇場の記録	83
太田健一	38	財団年表	84
日名川茂美	40	役員・評議員一覧	86
吉田全作	42		
才士真司	44		
国吉康雄	46		

おわりに



経済は文化の僕である

人々を心豊かにするのは経済活動だけではできません。経済の繁栄だけを目的化すると、かえって人々は不幸になると思います。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり、お年寄りの笑顔があふれる社会づくり」のために経済はあるのだと私は思います。

初の瀬戸内国際芸術祭の開幕年2010年、福武学術文化振興財団(2012年現福武財団に統合)の設立25周年記念としての国際シンポジウムが、瀬戸芸期間中に同時開催された。その際、「瀬戸内海と私」という演題で、「なぜ私は直島に現代アートを持ち込んだのか」を語った。

福武総一郎 FUKUTAKE Soichiro

福武財団理事長、ベネッセホールディングス名誉顧問、福武教育文化振興財団名誉顧問。1945年岡山市生まれ。福武書店(現ベネッセコーポレーション、ベネッセホールディングス)創業者・福武哲彦の長男として生まれ、86年父の急死により代表取締役社長に就任。92年直島にベネッセハウスを開設、2004年 地中美術館を開館、2010年直島に李禹煥美術館、豊島に豊島美術館を開館、「瀬戸内国際芸術祭2010」総合プロデューサー。2003年岡山県文化賞、2004年直島名誉町民称号、2006年香川県文化功労者、2008年芸術選奨文部科学大臣賞受賞、2010年日本建築学会文化賞、2010年第2回観光庁長官表彰、2012年モンブラン国際文化賞受賞、2013年地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。



不易流行

機関誌の題名を「不易」としたのは、教育と文化のいずれにおいても、変遷著しい社会や人の心は十分に認識し、それらに対応することは必要ではありますが、いたずらに社会の変転に右顧左眄することなく、財団の依って立つべき不変の基本理念をしっかりと押さえ、それに従って財団を運営し、諸活動を展開していかなければならないという、自らの戒めを表したものであります。

機関誌「不易」創刊号(1998年5月発刊)ごあいさつ文から

谷口澄夫 TANIGUCHI Sumio

福武教育振興財団・福武文化振興財団初代理事長。1913年牛窓町(現瀬戸内市)生まれ。1940年広島文理科大学史学科国史学専攻卒業。1969年岡山大学学長。1978年兵庫教育大学学長。1994年倉敷芸術科学大学学長。1999年就実女子大学・短期大学学長等を歴任、教育の発展に精魂を傾けた。池田光政、熊沢蕃山、香川真一などを採り上げ、更に岡山藩政史を纏め上げ、時流におもねず新しい研究を展開した。2001年1月没。



いい出会いは いい人生を創る

「だっぴ」の活動は若者と大人が生き方や働き方について、本音で語り合い意見交換をするプログラムと、場の提供です。「人が出会って刺激を受け何かが動き出す」この繰り返しが新しい未来をつくと思うのですが、私たちはそういう出会いとコミュニケーションの場とプログラムを提供しています。人は、自分の殻を脱ぐことはなかなか難しいでしょうが、「だっぴ」は生まれ変わるその瞬間を応援したい、そして、おかやまを愛する若者を育てたいと思います。地域の魅力的な生き方をしている大人との出会いによって、若者たちが将来社会を動かせるような人になって、おかやまで活躍してほしいと思っています。

機関誌「FUEKI 59号」(2016年1月発刊)から

柏原拓史 KASHIHARA Takushi

NPO法人だっぴ代表理事。1978年岡山市生まれ。名古屋大学大学院(理学研究科)修了後、日本気象協会入社。その後、より地域に根ざした生き方をするため岡山県環境保全事業団に転職。環境教育の普及や人材育成の業務をととした地域貢献を模索する。その傍らで、地域社会で大人と若者がもっと繋がるべきだとの思いから30歳の時に有志で「だっぴ」を立ち上げ、若者と大人の交流会や勉強会などのイベント開催を行う。2013年10月にNPO法人化。代表理事就任。2016年(第16回)谷口澄夫教育奨励賞。



トライ&エラー やってみなきゃわからない

20代前半の自分を鍛えてみたいと思ったんですよ。でも、勝算なんて全く無いから、これはもうフロンティア精神で臨むしかない。楽天主義だからモチベーションも高いし、やる気だけでアイデアラッシュ。だからトライ&エラーの繰り返しです。100ぐらいトライして3つぐらいが成功。あとは全部エラー。でもそのおかげで、地域の人、木工がありますよ、草木染がありますよ、落ち葉を集めて堆肥もできるよ、とか、いろいろ言ってくれて、勉強もさせてもらって。だから、今があると思っています。

機関誌「FUEKI 61号」(2016年9月発刊)から

藤井裕也 FUJII Hiroya

山村エンタープライズ代表。1986年岡山市生まれ。岡山一宮高校を卒業し岡山大学へ進学。高校から大学にかけて、「インターキッズ国際塾」と「連塾」にて地域創生と国際社会について学ぶ。大学在学中に国際協力団体「たわし」を設立。マガル族が住むネパール国ベソルガ村で学校づくりを行う。東日本大震災の年に、地域おこし協力隊として岡山県美作市に拠点を移し、岡山県の北端、過疎高齢化が急速に進む人口約700人の梶並集落で地域づくりに取り組む。2015年移住したメンバーで地域人材の育成と還流・地域課題の解決を目指す組織、NPO法人山村エンタープライズを設立。地域人材の育成プログラムの企画運営・農山村での若者自立支援「人おこし事業」をはじめ、地域人材の育成や地域経営に資する事業を企画実施している。2016年には岡山県の地域おこし協力隊の代表組織「岡山県地域おこし協力隊ネットワーク会議」代表、総務省地域おこし協力隊サポートデスク上級相談員を務める。



いい家具を作って 振り向いたらいい風景がある

家具職人が一生懸命作ろうと思えば思うほど工房から出なくなって、森のことが全くわからなくなる。その点、「百年の森林構想」は森との距離が近くて見えやすい。いい家具を作って振り向いたらいい風景があるかもしれない。そう思ったら夢中になってしまっ、次の日に辞表を出していた。

100年の森林構想が終わったときにきれいな森ができているかなと。次の問題は森をどうするか。そこで活躍できる職人を育てなければと思っている。これからは、森や自分たちのやっていることをわかりやすく噛み砕いて可視化し、来てもらべき人に来てもらう。そのために迎えられる態勢を整えつつ、きちんとシンプルに世界に向けて行動していく。

「ここに生きる、ここで創る」フォーラム vol.3「地域を紡ぐ、モノづくり」(2014年1月・ルネスホール)での発言から



大島正幸 OSHIMA Masayuki

家具職人。1980年栃木県生まれ。金沢工業大学建築学部卒業後、家具職人として修行。2009年岡山県西栗倉村にて、木工房ようび創業。特に「国産針葉樹」の家具のパイオニアとして知られ、約7年間で150種の家具を生み出す。デザインだけでなく、自ら工房を構えて制作しているのが特徴で、無垢や木組みの技術など、職人の育成にも力を入れている。家具、建築、プロダクトへの深い見識を活かし、複数のアイデア、チームマネジメント技術を相乗的に使った、マーケティングやプロジェクトデザインの手法も注目され、全国各地で、木材と地域の新たな可能性を生み出し始めている。2013年(第14回)福武文化奨励賞。



コミュニティの中で 日々きちんと暮らせる場所を みんなで整えていきたい

住み続けて使っていた家をクリエイティブリユースの実験室兼レジデンスの拠点とIDEA R LABとしてリノベーションした理由は、個人の家をもう少し地域に開く、オープンにしていくことで、地域の中の共有の資源になってもいいのではと思ったから。

LABでは料理と一緒に食べるということを大切にしている。地域の方やワークショップに参加された方と、玉島の食材で料理してみんなで楽しむと、あっという間に仲良くなる。

コミュニティというのは、歩いて行けるぐらいの範囲を思っていて、そのコミュニティの中で日々きちんと暮らせる場所をみんなで整えていけたらいいなと。ゆっくりとどんなに時間がかかってもかまわないので、やっていければなと思ってる。

「ここに生きる、ここで創る」フォーラム vol.5「地域資源をリノベーション」
(2014年1月・Junko Fukutake Hall)での発言から

大月ヒロ子 OTSUKI Hiroko

有限会社アイデア代表取締役・ミュージアムエデュケーションプランナー。1956年倉敷市(旧玉島市)生まれ。武蔵野美術大学造形学部卒業。板橋区立美術館学芸員を経て独立。ミュージアムづくり、展覧会監修、空間デザインを行うIDEA, INC. 代表取締役。著書に『クリエイティブリユース——廃材と循環するモノ・コト・ヒト』(millegraph)、『じぶんてつくろうこどものしゅげい』(福音館書店)他多数。教育・デザイン・研究領域・絵本でグッドデザイン賞、キッズデザイン賞、国際児童図書評議会賞など。2013年に倉敷市玉島にIDEA, INC. の一部門としてIDEA R LABを開設。



地域のおもしろさは 人の多様性

地域がおもしろいのは人の多様性だと思っています。世代もそうだし職業も、価値観だったり、年代だったり、いろんな人がいて民主主義が機能しています。町の政治という点からいくと、地域の人と話すのがドンピシャなんです。ずっとこの町に住んでいるという世代の上の方であれば、町の移り変わりも知っていますから。

社会教育や地域で何かやるという場合、結果集まっている人が60代、70代だったり、逆に若者だけだったりというのは、地域で取り組んでいるとは言えないと思ってます。地域でという場合は、多世代のいろんな人が集まるということをお前提におかなきゃいけないと思ってます。政治をメインにして、若い人と上の世代が価値観が全然違うということを知るといことも、もちろんいいと思いますし、逆に言えば政治をメインにしなくてもいいと思います。

財団WEB「財団と人」(2016年4月掲載)から

原田謙介 HARADA Kensuke

特定非営利活動法人YouthCreate代表理事。1986年岡山県生まれ。愛媛県愛光高校、東京大学法学部卒業。大学3年時に20代の投票率向上を目指し「学生団体ivote」を設立。卒業後の2012年4月インターネット選挙運動解禁を目指し「OneVoiceCampaign」を立ち上げる。2012年11月YouthCreateを設立し、「若者と政治をつなぐ」をコンセプトに活動中。2016年度からは岡山大学非常勤講師も務める。東京都中野区在住。



空間と関わっていく身体、 それが私のダンス

岡山県のアートプロジェクト事業に参加するときには、いろいろな人とコミュニケーションが取れるような活動をできるだけ心がけています。空間にとっても興味があるので、身体が動いていると面白いと思うような場所で踊ることが好きです。空間と関わっていく身体ということでダンスのアプローチをしてきました。

Jホール（Junko Fukutake Hall）は、遊びがいのある空間なので、そこから動きがでてくるという考えかたでダンスを創りました。ダムタイプの作品を観ていただいた方からは、身体をもっと前に出してほしいと言われたりしますが、空間が映像で大きく変わったり、一つの建築のように展開したりする中で身体がどう変わっていくのかということを考えて、振付をつくっていくことが好きです。

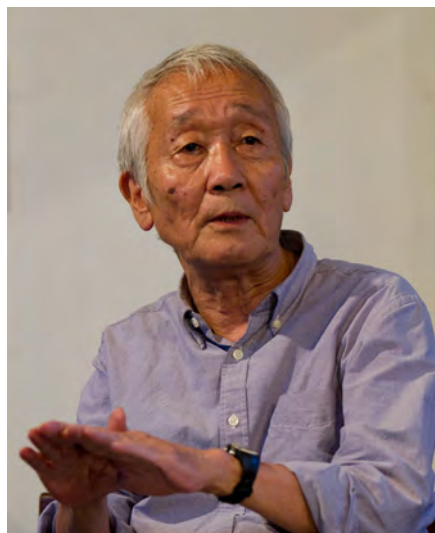
福武文化賞奨励賞贈賞式(2016年10月・Junko Fukutake Hall)での、喜びのコメントから

平井優子 HIRAI Yuko

ダンサー・振付演出家。1975年倉敷市生まれ。幼少よりクラシックバレエを始め、のちにコンテンポラリーダンスに転向。数多くの客演をつとめた後、2001年仏政府給費留学生として留学。同時にパフォーマンスグループ、ダムタイプのメンバーとなり世界ツアーに参加。以降コラボレーションを中心とした活動を行う。自身の振付作品として「愛について 語るときに我々の語ること」「猿蓐—Theface of strangers」「Ghosting」を発表、国内各地で公演。その他、高谷史郎全作品に振演出演として参加している。2016年(第17回)福武文化奨励賞。



©Yoshikazu Inoue



宇宙の中に住んでいるすごさを 日常的に体験できる場所である ことを発見した

犬島には、ちょうど幼稚園の運動場ぐらいの大きさの扇形をしている小さな入り江があって、干潮時には一面の干潟が現れる。感覚的にしか言えないが、それがすごくよくて。そこを会場に決めた。干潟は、月の引力によって潮の満ち引きがおこり、一日2回現れる。それは、大きく言えば、宇宙の原理を足元で体験できる場所。宇宙の中に住んでいるすごさを日常的に体験できる場所であることを発見した。これは大発見といえる。犬島の「精錬所」が常にそこにある風景ならば、恵まれたときにしか出会えない干潟は、偶然性の産物。発見する喜びを、見る側の主体性にゆだねられる風景であることに気がついた。同時にこの場所は、野外劇をしている僕らに、何か啓示を与えているのではないかと感じた。

財団設立25周年記念事業「海の劇場」公演「風景画」(大島)を前に、演出家・村川拓也氏との対談から(2011年6月・pieni deux)

松本雄吉 MATSUMOTO Yukichi

演出家・維新派主宰。1946年熊本県生まれ。大阪教育大学で美術を専攻。1970年維新派を結成。1991年東京・汐留コンテナヤードでの巨大野外公演「少年街」より、独自のスタイル「ダンダン☆オペラ」を確立。野外にこだわり、観客とともに旅をする「漂流」シリーズを企画。奈良・室生、岡山の離島・犬島などで公演を行う。代表作に、犬島の銅精錬所跡地内に劇場を建てた「カンカラ」、琵琶湖上に作ったくびわ湖水上舞台>が大きな話題となった「呼吸機械」、野球グラウンドで上演した「トワイライト」など。2000年に初の海外公演をオーストラリア・アデレードフェスティバルで上演する。これ以降も、ヨーロッパや南米でのツアーに加え、2009年オセアニアツアー、2011年シンガポールなど海外からの招聘も多数。2016年没。



その人に合った役割を 一緒にみつけること、これは とてもクリエイティブな仕事

人は何らかの役割を求めるものなんじゃないかと、とてもよく思う。老人ホームのお年寄りも何らかの役割を求めている。(中略)介護職員の仕事は入浴の介助、食事の介助、排泄の介助と大切な仕事があるんですが、一方で、お年寄りの役割をみつけるのも大切な仕事じゃないかと思う。お年寄りの人生のストーリーに耳を傾けて、今ある状態を把握して、その人に合った役割を一緒にみつけること、これはとてもクリエイティブな仕事。お年寄りはそれぞれですから、絶対にマニュアル化できないんです。この仕事はどこかしら演出家の仕事に似ている。演出家の仕事はストーリーを読み解き、俳優に役を与え、共演者や舞台装置などの環境を整えて、俳優に伸び伸びと舞台の上で演じてもらうことなんです。だから老人ホームのお年寄りも自分に合った役割を得たとたんに活き活きとされる。

財団WEB「財団と人」(2016年2月掲載)から

菅原直樹 SUGAWARA Naoki

「老いと演劇」Oibokkeshi 代表。奈義町アート・デザイン・ディレクター。1983年栃木県生まれ。2012年千葉から和気町に移住。移住前は小劇場系の劇団に所属し俳優として活躍。現在、「介護と演劇は相性がいい」を合い言葉に、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。平田オリザ(劇作家・演出家)率いる青年団所属。



トラブルこそが チャンスだと思っています

私たちの学園は、学期の途中でもいつでも入学できるようになっています。全寮制ですから、24時間365日ともに過ごしますので、いろんなことが日々起こります。職員の苦労は生半可ではありません。でも、トラブルこそがチャンスだと思っています。職員と子どもたちが一緒になって、話し合い、解決していくようにしているんです。

福武哲彦教育賞贈賞式(2016年7月・岡山プラザホテル)での、喜びのコメントから

黒瀬堅志 KUROSE Karashi

おかやま希望学園理事長。1947年久米郡美咲町生まれ。和歌山大学教育学部卒。岡山県で中学校教諭を9年務め、岡山県教育委員会職員に。県立支援学校長を経て、2009年から学校法人おかやま希望学園理事長。2012年から県をはじめ岡山市、倉敷市、吉備中央町の教育委員会と相次ぎ不登校問題への対応に関する連携協力についての協定を締結した。＜学園として＞岡山県三木記念助成金受賞。「ぱっちりモグモグ」生活リズム向上優良活動優秀賞(岡山県教育長表彰)。優れた「早寝早起き朝ごはん」運動推進(文部科学大臣表彰)。2016年(第30回)福武哲彦教育賞。



モノを作ることがいかに大事か ということ子どもたちが 体得していく町になればいいなと

私の夢は、勝山の町がモノづくりの町になって、小学生が歩いて学校から帰るときに、おじさんなんかモノを作っていて、こういう人生もあるって、こうやって楽しく生きている人がいるということ子どもたちに知ってもらいたい。モノを作ることがいかに大事かということ子どもたちが体得していく町になればいいなと。

モノづくりというものに対する幅を大きく広げて、みんながそれに対して共有できる感情を持っていくということが大事ではないかと思っている。

「ここに生きる、ここで創る」フォーラムvol.3「地域を紡ぐ、モノづくり」(2014年1月・ルネスホール)での発言から

加納容子 KANO Yoko

染織家。1947年真庭市勝山生まれ。女子美術短期大学デザイン科、生活美術科卒業。29歳で勝山にUターン。1996年に勝山町並み保存地区にて、のれん制作開始。生家にて「ひのき草木染織工房」を立ち上げる。2001年直島「スタンダード」展の関連企画として「本村のれんプロジェクト」に携わる。NPO法人勝山・町並み委員会理事。NPO法人として2008年(第9回)福武文化賞。

日本人である前に 地球人であれ

これからの日本は世界との関係においてコミュニケーションがないとやっていけない国だ。コミュニケーション力は自分の生きる場や活躍の場を広げてくれる。世界共通語である英語を日本語と同じぐらい話せないといけない。また世界を見ないで自分の経験だけで判断しても、世界を知っている人には勝てない。君たちはいろんな国の文化や習慣、考え方が違う人と接することが勉強になる。世界を知らないとより良い日本を作ることもしかない。日本人はもっと世界に出なければならない。日本の将来を君たちに託したい。だから日本人である前に地球人として世界で活躍してほしい。

プレ体験留学に参加した高校生たちに向けて(2011年8月オーストラリア・シドニーにて)

福武総一郎 FUKUTAKE Soichiro

福武財団理事長、ベネッセホールディングス名誉顧問、福武教育文化振興財団名誉顧問。1945年岡山市生まれ。福武書店(現ベネッセコーポレーション、ベネッセホールディングス)創業者・福武哲彦の長男として生まれ、86年父の急死により代表取締役社長に就任。92年直島にベネッセハウスを開設、2004年 地中美術館を開館、2010年直島に李禹煥美術館、豊島に豊島美術館を開館、「瀬戸内国際芸術祭2010」総合プロデューサー。2003年岡山県文化賞、2004年直島名誉町民称号、2006年香川県文化功労者、2008年芸術選奨文部科学大臣賞受賞、2010年日本建築学会文化賞、2010年第2回観光庁長官表彰、2012年モンブラン国際文化賞受賞、2013年地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。





学ぶことの本質は、 「なりたい自己」と「なれる自己」 を拡げることです

子どもは身近な大人を見、接して、あれになりたい、こんなことがしたい、と自分の将来の生き方の夢を描きます。それが「なりたい自己」です。さらに、学校で学習をすることによって、いろいろな学問や活動の面白さを知り「なりたい自己」を拡げていくことができます。

一方、今の自分の延長として、将来いったい何になれそうか、という可能性の選択肢が「なれる自己」です。それは学習することによって、確実に拡がっていきます。たとえば英語を学ぶことによって、就ける仕事の選択肢は拡がりますし、海外旅行や映画を見る楽しみも拡がります。

そして最終的に、人は「なりたい自己」と「なれる自己」の重なりから何かを選んで成っていく。学習はその領域を豊かに拡げる働きを持っています。そして、教師の役割は子どもたちの「なりたい自己」や「なれる自己」を拡げる支援をすることにほかならないと思います。

学力・人間力育成推進事業「ベネッセ勉強会」(2005年7月)の講演での言葉から



市川伸一 ICHIKAWA Shinichi

東京大学大学院教育学研究科教授。1953年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。専攻は認知心理学、教育心理学。「教えて考えさせる授業」「学びのポイントラリー」などを提唱。中央教育審議会教育課程部会委員。2006年から学力・人間力育成推進会議指導顧問。



これからも世界中の貧しい国の 目の不自由な子どもたちの 視力を回復させるのが今の夢です

2009年に福武哲彦教育賞を受賞された竹内昌彦氏は、当時「夢は、アジアのどこかの国に盲学校を建てることです」と熱い想いを語った。その後、2011年にモンゴル、2015年にはキルギスに視聴覚障害者の職業訓練学校を設立。現在はアジアの目の不自由な子どもたちの視力を回復させる手術費を送る支援をしており、すでにモンゴルで3人、キルギスでは20人の子どもの視力を回復させることに成功している。

竹内昌彦 TAKEUCHI Masahiko

元岡山県立岡山盲学校教頭。1945年中国天津(父親の赴任先)生まれ。小学2年生のときに網膜剥離により失明、1954年岡山盲学校へ編入。卒業後、東京教育大学へ進学。1968年卒業と同時に岡山盲学校の教諭に就任し、1999年から6年間教頭として活躍。在職中から25年間ずっと続けられている自身の体験をもとにした講演会活動は、現在では2000回を超え、視覚障害や視覚障害教育・盲学校についての理解啓発につながっている。その講演で集められた募金、謝礼金、著書の売上金などの収益でモンゴル・キルギスに視覚障害者の職業訓練学校を設立。第19回全国生涯学習フェスティバルにて文部科学大臣奨励賞受賞。日本点字図書館主催第49回随筆随想コンクール最優秀賞受賞。2009年(第23回)福武哲彦教育賞。第8回音響世界点字作文コンクール最優秀賞受賞。第10回読売福祉文化賞受賞。第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞。第10回塙保己一賞大賞受賞。著書に、『病理学概論』(教科書)、『見えないから見えたもの』(自分史)、『船長の粹な話』(エッセー)、映画「見えないから、見えたもの」は文部科学省より社会教育の教材映画に選定。



100人いたら優勝は1人で 99人は負けを経験します

「スケート大好き！」という根っこになる気持ちをしっかり育てることが大事。それが強ければ、自分で工夫し早く上手になりたいと願って主体的に努力ができるし、少しぐらい辛くても頑張れますよ。しんどいことも苦になりません。目標を持って、自ら考え、自分の意志でスケートを続けていく選手に育つはずです。負けの中に進化の手ごたえをつかみ次につながるものを見つけられたら、前に踏み出すことができ、もっと練習がしたくなります。へこたれません。

福武哲彦教育賞贈賞式・受賞者講演会(2014年7月・岡山プラザホテル)での言葉から

佐々木美行 SASAKI Miyuki

倉敷市立旭丘小学校教諭。1957年岡山県生まれ。小学校教諭として勤務する傍ら、1993年に倉敷フィギュアスケATINGクラブを設立し、自ら監督として20年以上指導に尽力する。高橋大輔選手の恩師としても名高く、現在も学校教育、社会教育共に地道で献身的な活動をしている。2014年(第28回)福武哲彦教育賞。



暮らしているここが世界の 中心で、ここに生きている

東京は全国区だから1億2000万のマーケットだが、実は東京の演劇人口はおそらく10万人から20万人程度。東京で10万人、20万人相手の商売をするのと、鳥取は人口最小県だが鳥取市の人口で19万人。僕の中ではマーケットの大きさは同じだし、そういう多様な人たちとどういう関係を結んでいくかのほうが面白いなと思っている。

東京と地方の関係がよく言われるが、僕は暮らしているここが世界の中心で、ここで生きている、ここで創るということがすごく大事だと思っている。

地域というのは「ここ」だと思う。「ここ」にしか私はいない。私は芸術が愛好される社会になってほしいとか、私は芸術が尊敬される社会になってほしいとか。いろいろな「私」の思いが集まって地域ができあがる。だから地域で働くこと、戦うことは面白い。

「ここに生きる、ここで創る」フォーラム vol.1「地域は文化をもとめているか」(2012年1月・ルネスホール)での発言から

中島 諒人 NAKASHIMA Makoto

演出家・鳥の劇場芸術監督。1966年鳥取県生まれ。90年東京大学法学部卒業。大学在学中より演劇活動を開始。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。2006年より鳥取で廃校を劇場に変え、「鳥の劇場」をスタート。2000年以上の歴史を持つ文化装置＝演劇の本来の力を社会に示し、演劇／劇場の深い価値が広く認識されることを目指す。芸術的価値の追究と普及活動を両輪に、地域振興や教育分野にも関わる。2003年利賀演出家コンクール最優秀演出家賞。2010年芸術選奨文部科学大臣新人賞。2015年鳥取県文化功労賞。鳥の劇場として、2011年度国際交流基金地球市民賞受賞。BeSeTo 演劇祭日本委員会代表。

地域史の魅力は Serendipity

Serendipityとは、幸運な発見とか幸運の女神という意味で用いています。自分の視点を変えることで新しい資料に巡り合えたときの感動は言葉には言い表せません。例えば、政治経済の視点から調査した場合には出会えなかった資料に、女性や福祉の問題など弱者の視点から資料をみますと、今まで取り扱われなかった未知の資料と出会えたことがありました。

福武哲彦教育賞贈賞式(2009年7月・岡山ブラザホテル)後の取材で、「地域史の魅力とは？」という質問に答えて



太田健一 OTA Kenichi

歴史研究者・山陽学園大学名誉教授。1936年岡山県生まれ。岡山大学教育学部卒。元山陽学園大学教授。第9回岡山市文化奨励賞受賞。第40回岡山県文化奨励賞受賞。山陽新聞賞(学術功労)受賞。2009年(第23回)福武哲彦教育賞。著書に『岡山市今昔写真集』『山田方谷のメッセージ』『小西増太郎・トルストイ・野崎武吉郎-交情の軌跡』『野崎台湾塩行の研究』『近代日本塩業・台湾塩業』。2016年没。



私だけが織っていたら この絣は次世代につながらない

紺と白を基調とした幾何学模様や縁起物を織り込んだ絵絣である岡山県郷土伝統工芸品の作州絣は、美作地域の庶民に親しまれていながらも2001年途絶えかけていた。作州絣の復興に向け、染と機織り技術を一から学び、2012年には「手織作州絣」の継続製造者として岡山県から認められた。「作州絣を育てる会」を「作州絣保存会」に改め、織り人養成講座や地元の小中高等学校での伝承継承授業をはじめ、2014年には機織りの実演見学や糸紡紡ぎ体験などができる「作州絣工芸館」（津山市西今町）をオープンさせ、作品の販売も行い観光産業としても成り立つよう取り組んでいる。

日名川氏の思いや行動力があったからこそ、こんにちの活動につながっている。

福武文化奨励賞贈賞式・受賞者活動紹介(2015年11月・Junko Fukutake Hall)での言葉から

日名川茂美 HINAKAWA Shigemi

岡山県認定作州絣製作者・作州絣保存会会長。1955年京都府生まれ。2007年鳥取短期大学絣研究所に特別研究生として入所。2008年「作州絣を育てる会」(後に作州絣保存会)を発足。2012年作州絣織り人養成講座開講。2014年作州絣工芸館会館。第55回倉吉市美術展覧会工芸の部入賞。第60回・61回岡山県美術展覧会工芸の部入選。2015年(第17回)福武文化奨励賞。



土地の力や風土に大きく左右される食品というものはそういうもの

チーズはフランスが一番有名。フランスには1000も2000もチーズの種類があるといわれていますが、作り方でいえばだいたい5種類ぐらい。なぜそんなにたくさんの種類があるかというと、同じ村でも、土地や作り手が違えば味が微妙に違うから。ワインと同じ。土地に生える草の味が違う、養分も違う、空気が違う、チーズや牛乳に入る最近が違うので、微妙に味が違って、その土地の味がでる。

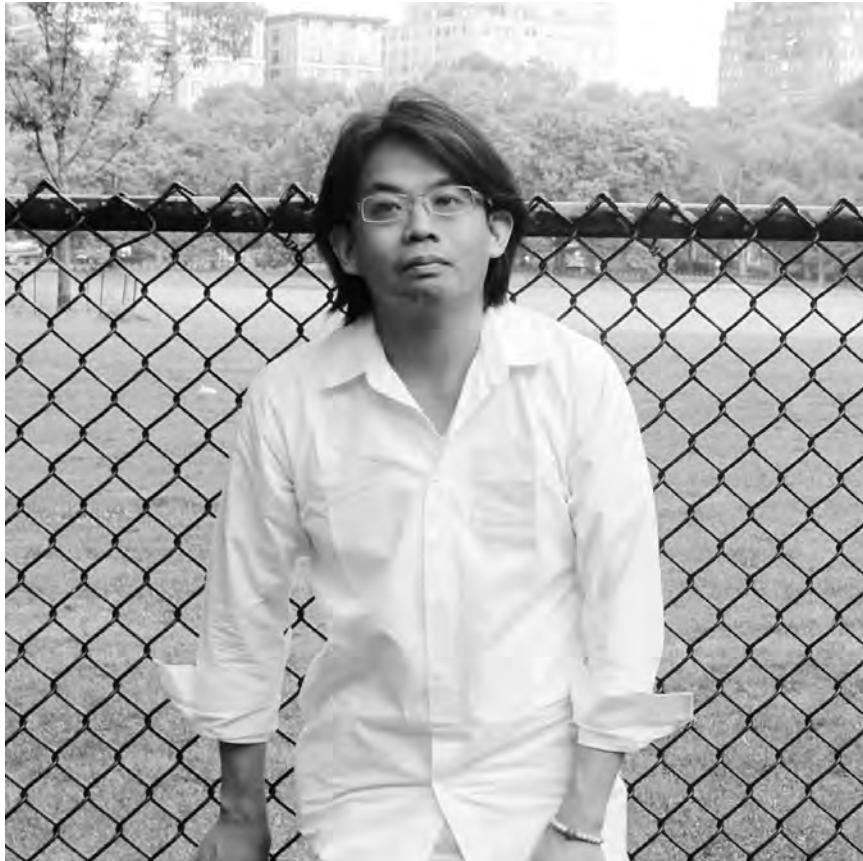
僕のコントロールできる範囲は少なく、土地の力や風土に大きく左右される。食品とはそういうものだと思っている。今、作られているモノはほとんど工場生産で、均一化することに重きを置いている。季節によっても味が違い、牛の体調によっても味が違うというようなものは、なくなってきている気がする。

「ここに生きる、ここで創る」フォーラムvol.3「地域を紡ぐ、モノづくり」(2014年1月・ルネスホール)での発言から

吉田全作 YOSHIDA Zensaku

チーズ職人・酪農家。1955年岡山市生まれ。北海道大学農学部畜産科卒業。土地に根ざし牛を放牧し、餌や牧草にこだわり、美味しい乳を搾り、独学でチーズを作り続け30年。全国に多くのファンを持ち、有名レストランの一流シェフたちからは絶賛され、入手困難さから〈幻のチーズ〉と呼ばれている。2007年(第8回)福武文化賞。著書に『チーズのちから〜吉田牧場の四季』ほか。

「問い」を立てること 立て続けること



僕が対象へ抱く興味の度合いというのは、それが日常のなかでの出会いであっても、仕事の縁だとしても、「問い」が立つか立たないかで決まる。初見でその問いが立つこともあれば、取材や分析を重ねることで問いが立つこともある。その問いから思考が、クリエイティブが始まる。けれど、すぐに「解」など得られるものじゃないし、大抵の場合、次の問いが立ち上がり、問いに問いが重なり延々とループすることになる。もちろん解を求める努力もする。取材と計画の修正を行うが、結局それも、新たな問いを探すことであって、これまでの問いを立て直すことでしかない。僕の場合は問いというのは解にもなりうるし、解は次の問いだとも思う。(略)それがどんな場面や段階、作品や地域、人に対してでも、問いを立てる。それがどんな問いであっても、問いが立つ対象の方が魅力的だと思うし、そういうことができる人に魅力を感じる。そう考えると、今、取材を続け、顕彰活動に参加している国吉康雄もそういう人だったんだろうなと感じる。

才士真司 SAITO Shinji

岡山大学国吉講座准教授。1972年兵庫県生まれ。大阪芸術大学卒業後、東京で映画製作に携わる。並行して舞台やアートイベントを企画し、ショービジネス全般を手がけるようになる。瀬戸内国際芸術祭2013での「国吉康雄展～ベネッセアートサイト直島の原点」の演出を担当したことをきっかけに、岡山で国吉康雄の研究、顕彰活動に参加。現在、岡山大学で、地域の芸術文化資源の活用実践として、国吉康雄作品、研究資料を使つての美術鑑賞教育コンテンツの開発と地域連携を行っている。



「制作中」 At work
1943年 カゼイン・ゲッソパネル
48.6 x 35.8 cm
福武コレクション

私は日本人であるといふ事はつきり知りました

日本に着くと同時に郷里岡山に歸つて、後樂園などぶらぶら歩き乍ら純日本の風物に接し子供の頃に相撲などした思ひ出に耽つてゐると、私は日本人であるといふ事はつきり知りました。日本人は如何に外國に深く入つても、結局外國人になれません。藝術は国民的のものであるべきか、世界的のものであるべきかは、むづかしい問題ですが、私が日本人である事を感じた事は、私の今度の藝術の上に非常にいゝ意義があつたと思ひます。

16歳で渡米し様々な職業を経ながら美術を学び画家を志し、米国の代表的画家として活躍。42歳で26年ぶりに一度だけ帰国した際のコラム(アトリエ1932年1月号)より

国吉康雄 KUNIYOSHI Yasuo

画家。1889年9月1日岡山県岡山市生まれ。1904年岡山県立工業学校染織科入学。06年高校を中退し、単身米国にわたる。働きながら美術を学び、アメリカの教育システムにより才能を開花。22年初の個展。29年ニューヨーク近代美術館「19人の現代アメリカ展」に選出。31年42歳のときに渡米後初の帰国。それ以降はアメリカに拠点を置き、太平洋戦争中は敵性外国人とされながらも自由と民主主義を信じ、軍国主義を強く批判。47年アメリカ芸術組合の初代会長に選出。アメリカ最大の芸術団体に育てる。52年ヴェネツィアビエンナーレにアメリカ代表として参加。53年東京での大回顧展が予定されていたが、63歳でニューヨークにて没。



写真提供：山陽新聞社

ここに生きる、ここで創る——

2011年の秋、文化・芸術活動を通じた地域づくりについて「みんなで考える場」を提供することを目指して、フォーラムの企画が持ち上がった。11月27日行われた財団と関係者の打ち合わせで、フォーラムの共通テーマを決めようということになり、「地域」「未来」「創る」「暮らし」などのキーワードを含むテーマ案が挙げられ、検討した。この言葉は、地域（地方）での生活のなかで文化・創造活動が続ける人たちの話に耳を傾けようというフォーラムの趣旨をそのまま表現したもの。

山川隆之 YAMAKAWA Takayuki

編集者・吉備人出版代表。1955年岡山市生まれ。三重大学農学部卒業。地域に根ざし、地域を掘り起こす本づくりをと1995年に吉備人出版設立。『のれん越しに笑顔がのぞくー勝山・暮らしから始まるまちづくり』など「本づくりはまちづくり」を掲げ、これまでに約600点を出版。日本出版学会会員、岡山ペンクラブ会員、NPO法人アートファーム理事。2012年(第13回)福武文化奨励賞、2013年度岡山市文化奨励賞(学術部門)受賞。著書に『岡山人じゃが』(岡山ペンクラブ・編)、『聞く、書く。』(聞き書き人の会・編)など。



必要なことにお金を出す という風土とか文化を育てる

僕が研修でNPO向けに寄付集めの話をするときには、まず「皆さんはどのようなときにお金を使いますか」と聞いています。モノを買うのはどのようなときなのか、その商品を気に入っているときなのか、生活に必要なからなのか、であれば、そのことにマッチしないといけないですね。助成金は報告だけで終わらず、成果を上げるということが重要なんだと意識づけをしています。

特に「みんなつく」の助成の事業には、報告をすることによって、自分たちが事業の成果を上げることで寄付のスパイラルがまわっていくんだなということを意識してもらうようにしています。

財団WEB「財団と人」(2015年4月掲載)から

石田篤史 ISHIDA Atsushi

公益財団法人みんなでつくる財団おかやま初代代表理事。1977年倉敷市生まれ。立命館大学卒業。2000年岡山県庁入庁。特に公共工事のIT化に関わり、入札情報の公開や、成果物データベースの構築による情報の有効活用(CALS/EC)をすすめるなど建設マネジメントを中心に取り組む。2012年に岡山県庁を退職し、市民財団担当として、特定非営利活動法人岡山NPOセンターに入職。一般財団法人みんなでつくる財団おかやまを市民530名の寄付により2012年9月設立。



文化とは、個性と創造性を伴う 美しいコミュニケーション

『…この世には面を背けるような残酷なことが平然とおこなわれ、その反面、涙のにじむようなやさしさもまた、人知れず咲いていたりします。無惨に断ちきろう断ちきろうとする強い力がある反面、結ばれよう結ばれようとする力もあ
るのです。たぶん芸術というのは、この結ばれようとする力に、美しい力を与え、目に見え耳に聞こえるようにしたいという精神活動の一種なのかもしれません。…』（「詩のこころを読む」抜粋〈茨木のり子、岩波ジュニア新書〉）
結ばれようとする力＝コミュニケーションなら、文化・芸術は個性と創造性を伴う美しいコミュニケーション。時代や年齢、性別、人種、言語、障がいなど
様々なバリアを楽々と越えていける。文化・芸術の振興は単なる暮らしのゆとりやうるおいにとどまらず、多くの現代的な社会問題…コミュニティの崩壊、青少年問題、社会的弱者の問題、DVなど…の解決につながる。37年の公務員生活で、そのことを実感し、財団で実現したいと思った。

中野行雄 NAKANO Yukio

福武教育文化振興財団常任理事。1949年岡山市生まれ。生粋の岡山っ子。岡山大学法文学部から県職員。生活環境部長時代に文化振興、NPO、男女共同参画、青少年育成などに携わり、備前県民局長で2008年県を退職。その後、念願になって当財団に就職。参与、事務局長、常任理事として9年目。



**FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION**

「F」をモチーフに、人と人との結びつき、支え合いを表し、教育や文化を通して地域づくりに情熱を燃やす人々を支援していく財団の活動を表現しています。

財団の認知度を高めるために2007年、ロゴの制作をグラフィックデザイナーの田中雄一郎氏に依頼。田中氏はFukutake Foundationの「F」とFree, Fair, Family, Future, Fine……などを財団のアイデンティティーとして挙げ、共通の「F」を採用。色は世界に広がり、人の動きをいつでもどこでも、誰にでも、寛大にかつ平等に見守る「空」をイメージしたスカイブルーとし完成した。

田中雄一郎 TANAKA Yuichiro

グラフィックデザイナー。1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部土木工学科卒業。都市計画コンサルタントを経て2004年QUA DESIGN style(クオデザインスタイル)を設立。同時に独学でデザインを学ぶ。現在岡山を拠点に活動し、企業、店舗、医療施設、美術展などのブランディングデザインを中心に手掛ける。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会会員。現在、岡山地区代表幹事。2016年漢字デザインビエンナーレ(国立台湾科技大学)招待作家。共著に『ロゴデザインの現場』(MdN コーポレーション)。



人と人が結びあい、触れあい、支えあう
教育、文化、そして地域との深い絆
理想を求めて、夢を描く
岡山の未来を見つめて
お話ししたいと思います

教育財団（20周年）と文化財団（10周年）が統合して「福武教育文化振興財団」が再スタートを切った2007年。財団が培ってきた信頼感、期待感に応え、未来へ向けた教育、文化の創造に貢献する新財団の姿勢を表すシンボルマーク、ロゴ、キャッチフレーズが制作された。

人々が結びあい、支えあう地域の中で、身近な存在を示す“お話ししたいと思います”という言葉に、新財団の果てしない意志が込められている。

キャッチフレーズは、当時の事務局長だった下山宏昭氏の製作



下山宏昭 SHIMOYAMA Hiroaki

元福武教育文化振興財団顧問。1941年勝田郡勝央町生まれ。法政大学法学部卒。68年に岡山放送創立時入社、放送記者、編成局長、取締役報道局長などを経て2005年6月に退任。その後、福武教育文化振興財団 事務局長、顧問を歴任する。主な作品暦「泰緬鉄道五人の証言」「邪宗門一日蓮宗不受不施派」ドキュメンタリードラマ「涙で絵具を・・・愛の旅びと夢二」「ふるさとドラマ12本シリーズ」「娯楽ドキュメンタリー桃太郎」「今カブトガニが危ない-地球環境の証言者」「日本最初のドキュメンタリー-石井十次・愛の記録」など。著書に『岡山人じゃが』（共著・吉備人出版）など。日本民間放送連盟賞など受賞歴多数。

青少年の健全育成に 特効薬はない



かつては「教育県」として名高かった岡山県。江戸時代から儒教に基づく学問が尊重され、寺子屋など活発な庶民教育の普及はもちろん、時代が変わっても誇りとした教育を地域の人たちが受け継ぎ、発展させている姿こそがその所以でしょう。

子どもの学力低下や問題行動が指摘される今、最も必要なものは「地域の力」ではないでしょうか。年を重ねた人が自身の体験を基に話す言葉は説得力が強い。そのため子どもたちが異年齢の人々との関わりから得るものには大きな力があると私は考えます。先代が残してくれた岡山県の教育の下地を存分に活かし、子どもに必要な体験を1つずつさせながら、一步一步…急がば回れの精神で粘り強く取り組むことが大切だと思います。

岡山県教育振興会総会記念講演会「教育県岡山の誇り」(2013年7月・ピュアリティまきび)での言葉から

森崎岩之助 MORISAKI Iwanosuke

元福武教育文化振興財団常任理事。1935年熊山町(現赤磐市)生まれ。岡山大学教育学部卒業。岡山県公立中学校教諭を経て、岡山県教育委員会職員となり、1993年からは岡山県教育委員会教育長を務める。退職後も県青少年育成県民会議会長、特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会理事長、福武教育文化振興財団常任理事、同評議員などを歴任。県内の教育文化の振興に尽力する。2006年瑞宝小綬章受章。その他、文部大臣賞、山陽新聞賞、三木記念賞など受賞歴多数。



© 株式会社46舎

そもそも文化というのは、みんなに知ってもらい、「いいね」という声がたくさんあがって、それが広がっていったら定着するんだと思います

財団として素晴らしい活動を見つけて、それをみんなに知ってもらえるような広報活動ができればいいなと。そうすると、素晴らしいと思う人、伝えたいと思う人、自分も参加したいと思う人、作品を買おうと思う人、応援しようと思う人、いろんな人が出てくるかもしれないでしょう。そのためには、とりあえず、みんなに知ってもらいたいです。私たちは共有しあうことが大事かなと思っています。

機関誌「FUEKI58号」(2015年10月発刊)理事長就任記念対談から

福武純子 FUKUTAKE Junko

福武教育文化振興財団理事長。1948年岡山市生まれ。2007年福武教育文化振興財団理事、2012年同副理事長、2015年より福武教育文化振興財団理事長。



©HASHI

「文化化・情報化・国際化」は、
会社が目指す将来の姿であり、目標である。
私はこれを実現するためにあらゆる
経営努力をこれに集中しようと思う

「文化化」は、即座に収益面でプラスにならないかもしれないが、私は「文化」からはずれるような仕事はしたくない。「文化」に投資して、それが回りまわって会社の経営をバックアップするという形になれば、最高の投資ともいえる。直接手に収益につながらなくても、会社の質の向上になる。例えば福武文化財団の構想などは、私のビッグドリームである。

講演、朝礼、会議等での語録集「福武のこころ」から

福武哲彦 FUKUTAKE Tetsuhiko

福武書店(現ベネッセホールディングス)創業者。1915年岡山県生まれ。1930年岡山県師範学校本課題一部入学。35年3月17日同校卒業、3月31日岡山県上房郡代和村(現加陽町)立大和尋常高等小学校へ配属。45年3月大日本青少年兵事青年課。47年福栄出版、50年山陽図書出版へ。50年学習社、富士出版社設立。54年7月富士出版倒産、55年福武書店設立。86年1月福武学術文化振興財団設立。同年4月25日没。哲彦氏の遺志により86年8月福武教育振興財団(現福武教育文化振興財団)設立。

福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

福武哲彦教育賞は教育の研究とその実践に顕著な業績をあげている個人、又は団体を顕彰すること。谷口澄夫教育奨励賞は、岡山県の教育の向上に著しい貢献が期待される個人、又は団体を奨励することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武哲彦教育賞

回	年度	受賞者・団体	
1	昭和62 (1987)	荻田昭三	岡山県立高松農業高等学校 校長
		木村岩治	前津山洋学資料館 館長
		倉敷市立多津美中学校	校長 森兼正彦
2	昭和63 (1988)	三島一夫	元倉敷市教育委員会 教育長
		森嘉吉	学校法人金山学園 理事長
		岡山市立旭操小学校	校長 直木正司
3	平成1 (1989)	金重博之	(社)岡山県精神薄弱者育成会 会長
		岡山県立鳥城高等学校	代表 岡田恭雄
		倉敷市立味野中学校	校長 洲脇博
4	平成2 (1990)	橋本進	中国短期大学 理事長
		岡山県立笠岡商業高等学校	校長 高畑喜一
		倉敷市立茶屋町小学校	校長 伊藤忠
5	平成3 (1991)	小林真寿江	新見女子高等学校 校長
		原田宣祐	元岡山市立東山中学校 教諭
		岡山市立平福小学校	校長 三道一正
6	平成4 (1992)	岡山県国際理解教育研究会	代表 熊代剛士
		岡山市立岡輝中学校	校長 大前真寿男
		片山嘉女子	元岡山市教育委員会学事課 嘱託
7	平成5 (1993)	林美知子	元岡山市教育委員会指導課 嘱託
		岡山県教育工学研究協議会	会長 近藤昂
		岡山県立水島工業高等学校	校長 近藤晋一
8	平成6 (1994)	岡山県高等学校芸術文化連盟	会長 國塩輝昭
		三澤和昭	吉備高原学園高等学校 校長
		津山市教育相談センター鶴山塾	塾長 矢野啓二
9	平成7 (1995)	青山静	岡山要約筆記クラブ 会長
		村松勲	就実高等学校教諭
		井原後月の教育史を語る会実行委員会	実行委員長 森山上志
10	平成8 (1996)	岡山県教育振興会	会長 谷口澄夫
		岡山市立太伯小学校幼稚園PTA	会長 岡崎昌仁
		奥山桂	前岡山市教育委員会 教育長
11	平成9 (1997)	渡辺和子	(学)ノートルダム清心学園 理事長
		岡山県立岡山城東高等学校	校長 大田原啓介
		岡山県立東岡山工業高等学校	校長 清水直道

回	年度	受賞者・団体	
12	平成10 (1998)	古都の子供を育てる会	推進委員長 堀木力
		岡山県立高松農業高等学校	校長 高畑幸彦
		赤枝郁郎	赤枝皮膚科医院 院長
13	平成11 (1999)	学校間連携委員会	委員長 安東達郎
		岡山県臨床心理士会	会長 清板芳子
		就実中学校・高等学校	校長 武内眞吾
14	平成12 (2000)	原田三代治	岡山県山陽高等学校 校長
		岡山県健康の森学園	学園長 竹本博明
		岡山県立岡山東商業高等学校	校長 藤田哲輔
15	平成13 (2001)	岡山県立精研高等学校	校長 芳田泰朗
16	平成14 (2002)	高木浩朗	前井原市教育委員会 教育長
		岡山県立興陽高等学校	校長 前田栞児
17	平成15 (2003)	高旗正人	岡山大学名誉教授
		岡山県立鴨方高等学校	校長 大島俊秋
18	平成16 (2004)	伊澤秀而	倉敷市立短期大学 学長
		佃幸男	岡山県青少年総合相談センター 所長
19	平成17 (2005)	社団法人ガールスカウト日本連盟岡山県支部	支部長 小林比禮子
		岡輝中学校区地域学校協議会	会長 川上洋一
20	平成18 (2006)	濱田栄夫	山陽学園大学 教授
		アクティブライフ井原 まなびめいと	会長 河合俊道
21	平成19 (2007)	佐藤曉	岡山大学教育学部 教授
		岡山県立倉敷中央高等学校	校長 古川英巳
22	平成20 (2008)	柴田一	元就実大学 学長
		岡山県立津山商業高等学校	校長 直原研造
23	平成21 (2009)	太田健一	元山陽学園大学 教授
		竹内昌彦	岡山県立岡山盲学校 講師
24	平成22 (2010)	山本力	岡山大学大学院教育学研究科 教授
		岡山県立久世高等学校	校長 池田芳徳
25	平成23 (2011)	戸村彰孝	元岡山市教育委員会 教育長
26	平成24 (2012)	千葉喬三	学校法人就実学園 理事長
27	平成25 (2013)	佐藤元信	元金光学園中学高等学校 校長
28	平成26 (2014)	佐々木美行	倉敷市立旭丘小学校 教諭
29	平成27 (2015)	こくさいこどもフォーラム岡山 (INTERKIDS)	代表 今西通好
30	平成28 (2016)	学校法人 おかやま希望学園	理事長 黒瀬堅志

※第1回から第30回までの受賞者数 計67件 役職などは受賞時のもの

谷口澄夫教育奨励賞（平成13年度までは福武教育奨励賞）

回	年度	受賞者・団体
1	平成13 (2001)	久山将弘 岡山市立岡輝中学校 教諭
		藤本貴司 岡山県立岡山城東高等学校 教諭
2	平成14 (2002)	高木弘子 井原市立高等学校 校長
		竹内秀明 岡山市立芥子山小学校 教諭
		辰田芳雄 岡山県立岡山朝日高等学校 教諭
		長瀬眞由美 ベル学園高等学校 教諭
		山本茂 おかやま山陽高等学校 教諭
3	平成15 (2003)	延堂雅弘 岡山市立南輝小学校 教諭
		津田秀哲 岡山県立瀬戸南高等学校 教頭
4	平成16 (2004)	早島町立早島小学校 校長 入谷秀夫
		安藤きよみ 倉敷市立連島北小学校 教頭
		糸島耕太郎 総社市立常盤小学校 教諭
		山部英之 井原市立井原小学校 教諭
5	平成17 (2005)	井上昭三 学校法人おかやま希望学園 学園長
		大島修 岡山県立鴨方高等学校 教諭
		藤枝茂雄 岡山県教育庁指導課 指導主事
		倉敷市立万寿小学校 校長 須山邦二
		高梁市立高梁中学校 校長 高田茂輝
6	平成18 (2006)	米谷正造 川崎医療福祉大学教授・川崎医療福祉大学大学院 教授
		倉田洋子 井原市立西江原小学校 教諭
		矢部清吾 岡山市立高島中学校 教諭
		井原ジュニア新体操クラブ 代表 井上正
		倉敷市立長尾小学校 校長 筒井律夫
7	平成19 (2007)	秋山繁治 学校法人ノートルダム清心学園清心中学校・清心女子高等学校 教諭
		岡野浩美 小田郡矢掛町教育委員会 指導主幹
		末廣聡 岡山県立備前緑陽高等学校 教諭
		NPO法人 ふれあいサポートちゃていず 代表 湊照代
		ブルー スカイ ブルー NISHIYAMA 代表 赤木保弘
8	平成20 (2008)	全円子 岡山商科大学 講師
		保野孝弘 川崎医療福祉大学 教授
		岡山県立矢掛高等学校 校長 仲田輝康
		倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会 代表 石浦洋子
		明誠学院高等学校チアリーディング部 GAIAS 代表 山本浩一
9	平成21 (2009)	小野秀明 前矢掛町立矢掛中学校 教諭
		清水久仁子 倉敷市立大高小学校 教諭
		筈井淳 明誠学院高等学校 教諭
		津山市立北陵中学校吹奏楽部 校長 中島章
		特定非営利活動法人 リスタート 代表 林尚彦

回	年度	受賞者・団体
10	平成22 (2010)	床勝信 岡山市立灘崎中学校 主幹教諭
		岡山県立岡山工業高等学校 校長 小林清太郎
		「川柳でつなぐ地域と学校」推進協議会 代表 大家浩三
		美作市立美作中学校吹奏楽部 代表 高田雅夫
		NPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」 代表 赤迫康代
11	平成23 (2011)	服部由利香 前岡山市立岡山後楽館中学校 教諭
		岡山県立岡山操山中学校 校長 廣本勝裕
		総社市立総社西中学校 校長 藤井和郎
12	平成24 (2012)	安藤由貴子 美作市立梶並小学校 非常勤講師
		佐藤雅代 山陽学園大学 教授
		松尾綾子 倉敷市立味野中学校 教諭
13	平成25 (2013)	飯田純子 美咲町立旭小学校 支援地域コーディネーター
		岡山県産業教育振興会 代表 末長範彦
14	平成26 (2014)	特定非営利活動法人 タップ 代表理事 古谷義子
		岡山県立総社南高等学校 ダンス部 代表 山本清美
15	平成27 (2015)	山陽女子高等学校 地歴部 代表 井上貴司
		板倉真由美 岡山市立第三藤田小学校 教諭
16	平成28 (2016)	合唱団こぶ 代表・指揮者 大山敬子
		ハーモニーネット未来 認定NPO法人子ども劇場笠岡センター 理事長 宇野均恵
16	平成28 (2016)	岡山県NIE推進協議会 会長 加賀勝
		岡山市立石井小学校 校長 後閑智美
		NPO法人 だっぴ 代表理事 柏原拓史

※第1回から第16回までの受賞者数 計60件 役職などは受賞時のもの

福武文化賞・福武文化奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

岡山県の文化の向上に著しく貢献した個人や団体の栄誉を讃えるために福武文化賞を贈り、また、岡山県の文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために福武文化奨励賞を贈り、文化の振興による魅力的で豊かな地域づくりに貢献することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武文化賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	高木聖鶴	書家
		小川洋子	小説家
2	平成13 (2001)	山口松太	漆芸家
		株式会社くらしきコンサート	
3	平成14 (2002)	古民家再生工房	
		近藤安个	声楽家
4	平成15 (2003)	森田翠玉	工芸作家
		三沢浩二	詩人
5	平成16 (2004)	臼井洋輔	吉備国際大学教授
		松島巖	ガラス工芸家
6	平成17 (2005)	岩崎淑・岩崎洸	ピアニスト・チェリスト
		坂本明子	詩人
7	平成18 (2006)	森陶岳	備前焼作家
		高原洋一	版画家
8	平成19 (2007)	神崎宣武	民俗学者
		吉田全作	酪農家
9	平成20 (2008)	丹下哲夫	手漉和紙製作者
		NPO 法人勝山・町並み委員会	
10	平成21 (2009)	藤原敬介	陶芸作家
		水戸岡鋭治	デザイナー・イラストレーター

回	年度	受賞者・団体	
11	平成22 (2010)	井上敬子	舞踏家
		原研哉	グラフィックデザイナー
12	平成23 (2011)	伊藤謙介	文化振興・京セラ㈱相談役
		小谷眞三	ガラス作家
13	平成24 (2012)	坂手洋二	劇作家・脚本家
		なんば・みちこ	詩人
14	平成25 (2013)	あさのあつこ	児童文学作家・小説家
		佐藤常子	染織作家
15	平成26 (2014)	隠崎隆一	備前焼作家
16	平成27 (2015)	原田マハ	小説家
17	平成28 (2016)	太田三郎	美術家

※第1回から第17回までの受賞者数 計31件 役職などは受賞時のもの

福武文化奨励賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	和田海山	木工芸家
		松本和将	ピアニスト
2	平成13 (2001)	観世流藤々会	
		あさのあつこ	児童文学作家
3	平成14 (2002)	田賀屋夙生	狂言師
		山田美那子	脚本作家
		おかやまアートファーム	
4	平成15 (2003)	東敬一	演出家
		岡山フィルハーモニック管弦楽団	
5	平成16 (2004)	岡山古文書を読む会	
		久保田厚子	陶芸作家
		備中たかはし松山踊り実行委員会	
		倉敷アカデミーアンサンブル	

回	年度	受賞者・団体	
6	平成17 (2005)	佐故龍平	金工作家
		撫川うちわ保存会「三杉堂」	
		川埜龍三	造形作家
		岡山市ジュニアオーケストラ	
		みゅーじかる劇団 きんちゃい座	
7	平成18 (2006)	郷原漆器生産振興会	
		岡本悦子	舞踊家・就実大学人文科学部助教授
		柁木和敬	テノール歌手
		倉敷管弦楽団	
8	平成19 (2007)	岡山県古武道連盟	
		岡山バッハカンタータ協会	
		伊藤宏恵	オペラ歌手
		小池郁江	フルート奏者
		NPO 法人21世紀の真庭塾	
9	平成20 (2008)	高月国光	木工芸作家
		宮尾昌宏	陶芸家
		高見信行	トランペット奏者
		特定非営利活動法人ハート・アート・おかやま	
10	平成21 (2009)	山路みほ	箏曲演奏家
		太田三郎	美術家・グラフィックデザイナー
		竹田喜之助顕彰会	
		特定非営利活動法人若い芽を育てる会	
11	平成22 (2010)	井手康人	日本画家
		内山詠美子	マリンバ奏者
		杉浦慶太	写真家
		山部泰嗣	和太鼓奏者
		唐子踊保存会	

回	年度	受賞者・団体	
12	平成23 (2011)	椿苑	洋画家
		檜山うめ吉	俗曲師
		白石踊会	
		特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山	
13	平成24 (2012)	塩津玉容	漆芸家
		三尾奈緒子	フルート奏者
		山川隆之	編集者・吉備人出版代表
		cine/maniwa	
14	平成25 (2013)	青地大輔	写真家
		大島正幸	家具職人
		木村善明	オペラ歌手
		守屋剛志	ヴァイオリニスト
15	平成26 (2014)	伊勢崎晃一郎	備前焼作家
		森山知己	日本画家
		花柳大日翠	日本舞踊家
		NPO 法人倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ	
16	平成27 (2015)	高本敦基	美術家
		中桐望	ピアニスト
		日名川茂美	岡山県認定作州絃製作所 / 作州絃保存会会長
		横仙歌舞伎保存会	
17	平成28 (2016)	片山康之	美術家
		岸本和明	奈義町現代美術館長
		平井優子	ダンサー・振付演出家
		特定非営利活動法人倉敷町家トラスト	

※第1回から第17回までの受賞者数 計64件 役職などは受賞時のもの

助成の歴史——教育

助成 種別	教育研究助成(S62～H27年度)		図書助成(S62～H8、H11～ H15年度) 図書館助成(H9～H10年度)		研究大会助成	
助成 概要	【公募型】教育による人づくり・地域 づくりを応援し、地域が活性化する ことを期待し、教育に関する有意義 な実践活動等を助成する		【図書助成】図書等の充実による 図書館利用の活性化及び読書 活動の振興を目的とする 【図書館助成】 図書館を利用しての教育活動の 研究に対して助成する		学校教育の発展及び地域の 教育の発展に資する教 育研究大会及び教育的諸 行事の開催に助成する	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
S62(1987)	15	3,000	10	2,000		
S63(1988)	17	3,057	15	3,000	9	1,200
H1(1989)	20	4,000	15	3,000	12	1,750
H2(1990)	20	4,000	15	3,000	10	1,050
H3(1991)	20	4,000	15	3,000	12	1,350
H4(1992)	20	4,000	18	3,000	19	2,350
H5(1993)	21	4,000	17	3,000	15	1,100
H6(1994)	21	4,000	18	3,000	15	1,140
H7(1995)	21	4,000	22	3,000	11	830
H8(1996)	25	4,900	23	4,600	13	1,420
H9(1997)	21	4,015	20	2,600	13	1,250
H10(1998)	38	7,557	13	2,600	14	1,066
H11(1999)	40	7,980	32	3,180	18	2,380
H12(2000)	40	8,000	28	5,000	23	2,700
H13(2001)	42	10,240	32	7,000	22	2,860
H14(2002)	40	9,900	37	6,850	22	2,950
H15(2003)	65	13,850	37	4,550	25	3,650
H16(2004)	69	9,910			22	2,500
H17(2005)	58	11,850			14	2,150
H18(2006)	74	11,950			18	3,850
H19(2007)	56	9,720			19	3,770
H20(2008)	69	11,900			25	2,970
H21(2009)	54	11,150			10	970
H22(2010)	55	11,700			10	1,000
H23(2011)	56	12,000			10	1,000
H24(2012)	56	12,000			10	1,000
H25(2013)	58	11,000			10	1,000
H26(2014)	56	12,000				
H27(2015)	43	10,700				
合計	1,190	236,379	367	62,380	401	49,254

(単位:千円)

[illegible]

※H25～特定教育助成6件には学力向上モデル地区助成(4件・地区)を含む

助成種別	平成の遣唐使助成事業		個性的教育を推進する地区・校助成		英語教育重点地区・校助成		英語教員研修助成	
助成概要	岡山県内の教員、教育OB、大学生からなる教育ボランティアを江西省に派遣し、南昌大学、江西師範大学の学生や教員などの協力を得て、現地の小中学校で岡山県を紹介する国際理解講座などを行い、交流を深めることにより、国際理解及び有効交流の促進を図る		学校及び地域社会の特色や地域の要望を踏まえた個性的で主体的な教育の実現を目指した取り組みに助成することにより、学校及び地域の教育の充実を図る		現在の教育課題の一つである英語教育について「使える英語」教育の実践的な研究を進める重点地区・校を選び、該当地区・校の授業の改善を支援し、その成果を県内外の教育関係者に公開・普及することにより、英語教育の改善に資する		中学校・高等学校の英語教員及び小学校で英語の指導を担当する教員に対してコミュニケーション能力の向上を図る目的で平成12年度より開始。研修はベルリッツ岡山ランゲージセンターで行った	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
S62(1987)								
S63(1988)								
H1(1989)								
H2(1990)								
H3(1991)								
H4(1992)								
H5(1993)								
H6(1994)								
H7(1995)								
H8(1996)								
H9(1997)								
H10(1998)								
H11(1999)								
H12(2000)							20	10,090
H13(2001)							20	9,990
H14(2002)							20	10,000
H15(2003)								
H16(2004)								
H17(2005)			4	12,000	4	12,000		
H18(2006)	1	500	6	18,000	6	18,000		
H19(2007)			7	19,000	7	20,500		
H20(2008)			9	21,000				
H21(2009)			5	9,000				
H22(2010)			3	5,000				
H23(2011)								
H24(2012)								
H25(2013)								
H26(2014)								
H27(2015)								
合計	1	500	34	84,000	17	50,500	60	30,080

(単位:千円)

英語研修助成		日中青年 交流事業 への助成		その他助成		合計金額 (千円)
小学校教員の英会話能力を向上させるために集中的な研修を行う目的で市町村教育委員会に委託する方式と変更し、岡山県情報ハイウェイのブロードバンドを活用した双方向テレビ会議システムで岡山市のベルリッツ岡山ランゲージセンターから送信し、それを遠隔の地域で視聴し受講する方式としている		日本と中国の高校生が相互に訪問交流し、英語または中国語で模擬授業に参加したり互いの生き方について語り合ったりすることにより、相互理解と友好を深め、自己の生き方を深く考える機会にする。あわせて、東アジアの平和構築の一助にする		年度途中で緊急を要する教育活動に対して助成する		
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	
						5,000
						7,257
						8,750
						8,050
						8,350
						9,350
						8,100
						8,140
						7,830
						10,920
						7,865
						11,223
						13,540
						34,790
						40,090
						39,700
2	2,300					28,150
4	4,690					22,900
4	4,860	1	5,310			56,370
4	4,840	1	6,340	3	2,800	78,480
4	4,874	1	6,584	1	500	80,070
4	5,060	1	6,970	1	300	69,538
4	5,120			4	700	49,040
4	5,200			10	1,950	48,850
4	5,160			4	750	40,410
4	5,320			5	1,500	37,320
4	5,050	1	540	4	1,050	33,911
4	5,200	2	850	7	1,600	34,626
4	5,200	2	1,000	6	1,200	32,470
50	62,874	9	27,594	45	12,350	841,090

助成の歴史——文化

助成 種別	文化活動助成		指定文化財 保全助成		郷土芸能界 発表助成		瀬戸内圏文化 振興助成		特定文化助成	
助成 概要	【公募型】岡山県内で 行われる、地域の活性 化に貢献することを目的 とした文化活動に助成 する		国、県等が指定し た文化財を保全す るための費用を助 成する		岡山県郷土芸能 振興会が行う「郷 土芸能フェスティバ ル」に助成する		広く瀬戸内圏内の 伝統文化を発掘す るとともに、当該の 自然・歴史・風土・ 伝統を踏まえた文 化の創造・発信す る活動を支援する ための事業に助成 する		地域の文化振興 に特に有益と認め られる記念的な文 化事業に対して助 成する(H15年度ま での名称は特定文 化事業助成)	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
H9 (1997)	30	5,300								
H10 (1998)	49	8,000								
H11 (1999)	50	8,100	3	1,500						
H12 (2000)	71	14,000	4	3,000	1	2,000			2	4,000
H13 (2001)	74	17,880	4	3,000	1	3,000			3	4,500
H14 (2002)	64	11,450	2	3,000	1	3,000			1	5,000
H15 (2003)	49	10,350	3	1,900	1	1,800			4	4,600
H16 (2004)	70	12,950	4	3,000	1	1,000			9	8,000
H17 (2005)	64	12,000	3	3,000	1	1,800	1	10,000	11	7,200
H18 (2006)	75	14,450	2	3,000	1	1,850	2	13,000	9	12,500
H19 (2007)	81	14,850	3	2,880	1	1,500			11	11,420
H20 (2008)	97	15,900	1	1,200					9	19,330
H21 (2009)	93	16,750	3	1,300					8	14,800
H22 (2010)	101	19,400	2	700					9	16,400
H23 (2011)	94	19,500	1	700					5	8,300
H24 (2012)	100	18,950	3	1,000					7	8,300
H25 (2013)	84	18,000	2	1,000					10	7,750
H26 (2014)	83	17,750							9	7,000
H27 (2015)	86	18,000							8	7,705
合計	1,415	273,580	40	30,180	8	15,950	3	23,000	115	146,805

(単位:千円)

伝統文化振興 事業助成		国民文化祭開催 関連事業助成		国吉康雄特別・へ の鑑賞助成		瀬戸内文化 育成助成		その他助成		合計金額 (千円)
備前陶芸の研究 と普及、吉備楽の 復興と普及、伝統 工芸技術の保全 と振興		岡山県文化連盟 に係る地域の文 化力向上事業へ 助成する		岡山市内の小・中 学生等が国吉康 雄特別・を授業・ 行事として鑑賞す るために必要な経 費を助成する		瀬戸内文化の育 成、創出のために 必要プロジェクト に対して助成する		年度途中で緊急を 要する文化事業に 対して助成する		
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	
										5,300
										8,000
										9,600
3	3,000									26,000
3	3,000									31,380
2	2,000									24,450
								3	4,500	23,150
								2	5,000	29,950
								4	28,220	62,220
		1	5,200	2	530			7	2,200	52,730
		1	5,200					11	5,510	41,360
								17	5,440	41,870
						1	1,000	13	4,600	38,450
						5	5,700	13	3,800	46,000
						3	3,100	8	2,900	34,500
						9	4,500	14	2,830	35,580
						10	3,300	20	4,000	34,050
						3	1,200	16	3,750	29,700
						8	3,700	14	3,050	32,455
8	8,000	2	10,400	2	530	39	22,500	142	75,800	606,745

オーストラリア・プレ体験留学

岡山県内の高校生等で、卒業後オーストラリアの公立キャリアカレッジTAFE (Technical and Further Education) への留学を志す者を対象に、TAFE ならびにシドニー市内の大学見学や TAFE 付属の英語学校での語学学習の機会（プレ体験留学）を提供し、留学意欲を高め海外進学の効果的な準備を行うことを目的とする。

回	年度	実施月日	研修先	参加人数	備考
1	19年度 (2007)	10月20日～10月27日	シドニー	25	海外教育事情調査としてTAFEを視察
2	20年度 (2008)	8月2日～8月9日	シドニー	25	オーストラリア・プレ体験留学開始
		10月18日～10月25日	シドニー	22	海外教育事情調査としてTAFEを視察
		3月21日～3月28日	シドニー・プリズベン	21	
3	21年度 (2009)	—	—	0	新型インフルエンザ流行のため未実施
4	22年度 (2010)	8月8日～8月16日	メルボルン・シドニー	42	
5	23年度 (2011)	8月15日～8月21日	シドニー	33	
6	24年度 (2012)	8月12日～8月18日	シドニー	32	
7	25年度 (2013)	8月11日～8月17日	シドニー	24	
8	26年度 (2014)	8月10日～8月16日	シドニー	24	
9	27年度 (2015)	8月2日～8月8日	シドニー	19	
10	28年度 (2016)	7月31日～8月6日	シドニー	22	

講演会・フォーラムの記録

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
	昭和63 (1988)	国際化に対応している学校は 基調講演「国際化と教育」	江淵一公	広島大学教授	8月25日 岡山 東急 ホテル
	平成1 (1989)	国際理解教育を学校教育の中 でどのようにすすめていくか 基調講演「新学習指導要領と 国際理解教育について」	中島章夫	未来教育研究所所長	11月11日 まきび会館
1	平成2 (1990)	場に挑み、気を描く	田村能里子	画家	12月1日 福武書店 本社
2	平成4 (1991)	現代青少年とこれからの学校教育	片岡徳夫	広島大学教育学部教授	5月16日 岡山プラザ ホテル
3	平成4 (1992)	教育の国際化	黒羽亮一	前筑波大学教授	7月4日 まきび会館
4	平成5 (1993)	人を軸とした福武書店の経営 哲学	長尾俊男	(株)福武書店社長室長	5月29日 レストラン西 川
5	平成6 (1994)	環境教育は足元から —生物世界の掟—	宮脇昭	国際生態学センター研 究所長	5月22日 岡山プラザ ホテル
6	平成8 (1996)	戦後の教育改革の問題点 —「教育県岡山」に寄せて—	谷口澄夫	倉敷芸術科学大学学 長	3月2日 岡山 東急 ホテル
7	平成9 (1997)	地域づくりと文化	目瀬守男	岡山大学農学部教授	3月15日 岡山プラザ ホテル
8	平成10 (1998)	21世紀の生涯学習とまちづくり	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策 部教授	2月25日 岡山プラザ ホテル
9	平成10 (1998)	21世紀の新しい余暇を考える	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策 部教授	8月5日 岡山県生 涯学習セン ター
10	平成11 (1999)	21世紀の地域文化を創造する	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策 部教授	2月22日 岡山プラザ ホテル
11	平成11 (1999)	我が国が受け入れた中国文化	梅原郁	就実女子大学教授	8月10日 岡山プラザ ホテル
12	平成12 (2000)	シルクロードと楼蘭探検	長澤和俊	就実女子大学教授	1月19日 岡山プラザ ホテル
13	平成12 (2000)	新しいシルクロードの探検— 熱砂の大海道を行く—	長澤和俊	就実女子大学客員教 授	10月27日 岡山プラザ ホテル
14	平成13 (2001)	新アメリカ教育事情— 学校教育に見る人間形成と地 域・学校の連携—	青木多寿子	岡山大学教育学部助 教授	2月24日 岡山プラザ ホテル
15	平成13 (2001)	日米のはざまに生きた画家・国 吉 康雄	猿谷要	東京女子大学名誉教 授	10月29日 ベネッセコー ポレーション 本社
16	平成14 (2002)	21世紀の教育を考える	柴田一	就実女子大学学長	2月16日 ベネッセコー ポレーション 本社
17	平成14 (2002)	これからの家庭教育 —人間の絆を育てる—	佐々木正美	川崎医療福祉大学教 授	11月5日 三木記念ホ ール
18	平成15 (2003)	文化を大切にする社会をめざし て	大西珠枝	岡山県副知事	1月25日 ベネッセコー ポレーション 本社
19	平成15 (2003)	「教師が変われば子どもが変わ る」ということ	高旗正人	岡山大学名誉教授	11月29日 ピュアリティ まきび

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
20	平成16 (2004)	日本再生への提言「岡山文化の展開原理」	臼井洋輔	吉備国際大学社会学部教授	1月22日	ベネッセコーポレーション本社
21	平成16 (2004)	コミュニケーション能力の育成ー英語教育と国際理解教育の接点を求めてー	松畑熙一	岡山大学副学長	11月27日	ピュアリティまきび
22	平成17 (2005)	東アジアから見た総社の鬼ノ城	葛原克人	ノートルダム清心女子大学教授	1月27日	岡山国際ホテル
23	平成17 (2005)	生きる力と学力形成ー教育の復権を求めてー	森川直	岡山大学 教育学部長	11月19日	ピュアリティまきび
24	平成17 (2005)	みのりある教育に向けてー学校と地域で「確かな学力」を育てるー	市川伸一	東京大学大学院 教授・文学博士	12月26日	ホテルグランヴィア岡山
25	平成18 (2006)	芸術創造の心について	蛭田二郎	日本芸術院会員 岡山大学名誉教授	1月24日	岡山プラザホテル
26	平成18 (2006)	今何故学力・人間力の育成が求められているのかー岡山県での取り組みー	市川伸一	東京大学大学院 教授・文学博士	8月27日	岡山プラザホテル
27	平成18 (2006)	現代教育と日本の教育	モハマッド・ライース	株式会社林原 専務取締役	11月4日	ピュアリティまきび
28	平成18 (2006)	教育・文化が果たす役割と未来	村上龍	作家	11月30日	ベネッセコーポレーション本社
29	平成19 (2007)	「岡山県の友人たち」	菅原文太	俳優	11月10日	岡山コンベンションセンター
30	平成21 (2009)	みんなが参加し考える国際シンポジウム瀬戸内海「未来から見た風景」			3月14日	山陽新聞さん太ホール
		基調講演「瞑想の海」	中西進	奈良県立万葉文化館長		
		基調講演「地中海・海洋都市の歴史」	ジュセッペ・ガルガーノ	前アマルフィ歴史文化センター所長		
		基調講演「南イタリアの歴史を活かした街づくり」	陣内秀信	法政大学 教授		
		基調講演「地域から世界へ発信ー瀬戸内国際芸術祭」	福武総一郎	直島福武美術館財団理事長		
	コーディネーター	千葉喬三	岡山大学長			
31	平成22 (2010)	瀬戸内海を希望の海に～芸術祭の思想と期待するもの～	北川フラム	瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター	3月17日	山陽新聞さん太ホール
32	平成22 (2010)	瀬戸内国際芸術祭2010 アートをめぐる・連続シンポジウム 第1回「美術とキュレーション、その仕事」	妹島和世	建築家	7月4日	岡山国際交流センター
			長谷川祐子	東京都現代美術館チーフキュレーター		
			柳幸典	アーティスト		
			北川フラム	瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター		
33	平成24 (2012)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.1ー地域は「文化」を求めているかー 基調講演「劇場にできること」 トークセッション:暮らしているからこそできる、まちづくり	中島諒人	鳥の劇場 芸術監督	1月9日	ルネスホール
			大森誠一	NPO法人アートファーム 代表理事		
			山川隆之	吉備人出版 代表		

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
34	平成24 (2012)	「Setouchi Triennale 一瀬戸内海を希望の海に―」	北川フラム	瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター	10月21日	ターミナルスクエア
35	平成25 (2013)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.2 ―生活と文化、そして地域の未来―	杉浦慶太	写真作家	3月2日	ルネスホール
		山崎樹一郎	cine/maniwa 代表			
		井筒耕平	美作市地域おこし協力隊			
36	平成26 (2014)	トークセッション:暮らしているからこそ見える、可能性	山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表	1月13日	ルネスホール
		フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.3 ―地域を紡ぐ、モノづくり―	吉田全作	チーズ職人・酪農家		
		加納容子	染織作家			
37	平成27 (2015)	トークセッション:モノづくりと地域づくり	大島正幸	家具職人	1月12日	Junko Fukutake Hall
		山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表			
		フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.4 ―地域の明日のつくりかた―	牧大介	株式会社西栗倉・森の学校 代表取締役		
38	平成28 (2016)	基調講演「地域でチャレンジをプロデュースする～西栗倉村・森の学校の挑戦～」	河上直美	NPO法人タブララサ理事長	1月11日	Junko Fukutake Hall
		浅井克俊	瀬戸内市地域おこし協力隊			
		森美樹	うのづくり実行委員会委員長 / ガラス作家			
39	平成29 (2017)	トークセッション:地域の明日をつくる、プロデューサー	山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表	1月11日	Junko Fukutake Hall
		黒瀬仁志	特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山 特別顧問			
		大月ヒロ子	IDEA R LAB 代表 / ミュージアム・エデュケーション・プランナー			
40	平成30 (2018)	基調講演「ルネス10年の歩み」	片山康之	一般社団法人クリエーターズラウンジ / 美術家	1月11日	Junko Fukutake Hall
		高本敦基	岡野屋旅館プロジェクト / 美術家			
		山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表			

※昭和63年は「教育の国際化実践セミナー」、平成元年は「国際理解教育実践セミナー」として開催
 ※平成2年度から「教育・文化講演会」を開始

福武教育文化叢書の記録

	年度	著書名	著者	仕様	発刊日	発行	内容
1	平成19 (2007)	犬島ものがたり —アート島の島 の昨日・今日・明日	在本桂子	A5判 186 ペ ージ	12月31日	吉備人 出 版	瀬戸内に浮かぶ周囲4キロの犬島。岡山市で唯一人が住む島は、かつては石の島として知られ、大阪城をはじめ日本中にその巨石が運び出された。現代では、数多くの映画のロケが行われ、舞台芸術の舞台ともなり、今、アートの島として生まれ変わろうとしている。豊かな自然に恵まれた犬島に生まれ、この島をこよなく愛する著者が、島の昨日・今日そして未来へ案内する。
2	平成21 (2009)	音楽さえあれば —ピアノとチェロ で世界を巡る	岩崎 淑 岩崎 洸	四六判 206 ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	音楽を愛する両親のもとで生まれた岩崎淑と岩崎洸。空腹感と戦争の恐怖のなかでも音楽を忘れることなく育った二人は、世界的な活躍をみせる音楽家に成長。音楽にふれた幼いころ、アメリカでの修行時代、一流の演奏家たちとの共演、そして後進の指導など、全編音楽への愛情にちりばめられています。
3	平成22 (2010)	のれん越しに 笑顔がのぞく —勝山—暮らし から始まるまちづ くり	NPO 勝山 町並み委 員会・編	A5判 129 ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	町並みを飾るのれん、町をあげてのお雛まつり、故郷を離れている若者が年に一度はこのために帰ってくるという秋の勝山まつり……。自分たちの暮らしを大事にし、ここで豊かに生きること、楽しく生きること、を主眼とした、まちづくりとはいったい何なのだろう。四半世紀近くにわたってまちづくりを担い、楽しみながら先頭を走ってきた人たちの話を基に、「美しいまちなみ大賞」(国土交通省・2009)を受賞した岡山・勝山のまちづくりの秘密を探る。

海の劇場の記録

◎教育支援で培った学ぶ力と文化支援で育んだ創る力を地域の未来づくりに役立てるために、NPO 法人アートファームとの共催により次の2事業を実施。

□教育普及事業（学校でひろく舞台芸術教室）
アーティストを学校に派遣して子どもたちの創造性と表現力を高める事業

年度	対象校	講師
平成23 (2011)	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
	玉野市立宇野中学校	MAKI(藤原麻紀・コード“M”プロデューサー)
	岡山県立西大寺高等学校・ダンス部	山下残(振付家・演出家)
	岡山県立総社高等学校	大岡淳(劇作家・演出家)
平成24 (2012)	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
	岡山市立竹枝小学校	北村成美(舞踊家・振付家)
平成25 (2013)	岡山市立竹枝小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
	岡山市立朝日小学校	須原由光 & ズンチャチャメンバー
平成26 (2014)	岡山市立竹枝小学校	小野寺修二(演出家・カンパニーデラシネラ主宰)
	岡山市立朝日小学校	小野寺修二(演出家・カンパニーデラシネラ主宰)
平成27 (2015)	岡山市立朝日小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
	岡山市立馬屋下小学校	大岡淳(演出家・劇作家)
平成28 (2016)	岡山市立朝日小学校	中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)
	岡山市立小串小学校	白神ももこ(舞踊家・演出家・振付家、モモンガ・コンプレックス主宰)

□創造発信事業(演劇・ダンス等の公演)
岡山（主に犬島）の地域資源と舞台芸術をつなぐ事業

年度	公演名		公演日	公演場所
平成23 (2011)	維新派「風景画」犬島公演	構成・演出＝松本雄吉	9月23日・24日・25日	犬島
	移動演劇 宮本常一への旅 地球4周分の歌	演出＝村川拓也	10月9日・10日	犬島
平成24 (2012)	犬島ダンス掌編集「たまゆら」	舞踊＝湯浅永麻、ミゲル・オリベイラ、柳本雅寛、楠田健造	7月28日・29日	犬島
	新作野外劇「内海のクジラ」	作・演出＝坂手洋二・燐光群	9月22日・23日	犬島
	日本初演「天使バビロンに來たる」	演出＝中島諒人・鳥の劇場	11月3日・4日	犬島・犬島精錬所美術館
平成26 (2014)	悲劇と廃校の美しい関係「ロミオとジュリエット」公演	演出＝小野寺修二	10月4日・5日	旧内山下小学校体育館

※23・24年度は創立25周年記念事業として開催

財団年表

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
昭和61年 (1986)	8月29日 財団法人福武教育振興財団設立 初代理事長:谷口澄夫 事務所を岡山市高柳東町10番1号に置く 10月15日 第1回理事・評議員会開催。設立披露パーティ	
昭和62年 (1987)	福武哲彦教育賞を制定	
昭和63年 (1988)		
平成元年 (1989)		
平成2年 (1990)	事務所を岡山市南方3丁目7番17号に移転 教育・文化講演会開始	
平成3年 (1991)		
平成4年 (1992)		
平成5年 (1993)		
平成6年 (1994)		
平成7年 (1995)		(株)福武書店、(株)ベネッセコーポレーションに社名変更
平成8年 (1996)	7月8日 財団法人福武文化振興財団設立発起人会 8月23日 財団法人福武文化振興財団設立 初代理事長:谷口澄夫 事務所を岡山市南方3丁目7番17号に置く	
平成9年 (1997)		
平成10年 (1998)	機関誌「不易」創刊	
平成11年 (1999)		
平成12年 (2000)	福武文化賞・福武文化奨励賞を制定	第1回大地の芸術祭
平成13年 (2001)	福武教育奨励賞を制定 1月15日 谷口澄夫理事長 急逝(87歳) 福武総一郎が理事長に就任	
平成14年 (2002)	福武教育奨励賞を谷口澄夫教育奨励賞に名称変更	
平成15年 (2003)		第2回大地の芸術祭

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
平成16年 (2004)		財団法人 直島福武美術館財団設立 地中美術館開館
平成17年 (2005)		
平成18年 (2006)	教育財団設立20周年記念・文化財団設立10周年 記念講演会開催、記念誌発刊	第3回大地の芸術祭 岡山県立美術館特別展「国吉康雄展」開催
平成19年 (2007)	教育財団と文化財団が統合し「福武教育文化振興財団」になる 財団ロゴ完成 福武教育文化叢書「犬島ものがたり」発刊	財団法人 文化・芸術による福武地域振興財団設立
平成20年 (2008)	福武教育文化叢書「音楽さえあれば」発刊	犬島アートプロジェクト「精錬所」開館
平成21年 (2009)	第4回大地の芸術祭視察 福武教育文化叢書「のれん越しに笑顔がのぞく」発刊	第4回大地の芸術祭
平成22年 (2010)	「瀬戸内国際芸術祭」実行委員会 維新派「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」犬島公演 東日本大震災に係る義援金寄託(山陽新聞)	瀬戸内国際芸術祭2010 李禹煥美術館開館 犬島「家プロジェクト」開館 豊島美術館開館 第25回国民文化祭・おかやま2010
平成23年 (2011)	財団設立25周年記念事業「犬島 海の劇場」事業開始 フォーラム「ここに生きる、ここで創る」開始	岡山県立美術館特別陳列「福武コレクションによる国吉康雄展」開催
平成24年 (2012)	4月1日 公益財団法人に認定 「公益財団法人 福武教育文化振興財団」に移行 「瀬戸内国際芸術祭」岡山県内情報交換会等開催	福武学術文化振興財団、直島福武美術館財団、文化・芸術による福武地域振興財団の3財団ともに公益財団法人に認定後「公益財団法人 福武財団」に統合
平成25年 (2013)	瀬戸内国際芸術祭2013参加機運の醸成に取組む	瀬戸内国際芸術祭2013 Junko Fukutake Hall(岡山大学鹿田キャンパス内)オープン
平成26年 (2014)	財団公式web全面リニューアル	Junko Fukutake Terrace(岡山大学津島キャンパス内)オープン
平成27年 (2015)	福武総一郎名誉顧問就任 福武純子理事長、松浦俊明副理事長就任 30周年記念事業「岡山大学寄付講座」開始 スミソニアン博物館「国吉康雄展」視察 財団公式Facebook開始	G7倉敷こどもサミットの開催 スミソニアン博物館(ワシントンDC) 「国吉康雄展」開催
平成28年 (2016)	財団設立30周年記念フォーラム開催、記念誌発刊 瀬戸内国際芸術祭2016参加機運の醸成に取組む	瀬戸内国際芸術祭2016 横浜そごう美術館「国吉康雄展」開催 岡山県立美術館「国吉康雄展」開催 G7倉敷教育大臣会合の開催 第1回岡山芸術交流

役員・評議員一覧／財団法人福武教育振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

昭和61年度(1986)			昭和62年度(1987)		
理事長	谷口澄夫	兵庫教育大学学長	谷口澄夫	兵庫教育大学名誉教授・元岡山大学学長	
副理事長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長	
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問	
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授	
	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長	
理事	江見公雄	岡山県中学校長会会長	小山繁	岡山県小学校長会会長	
	阪本曉夫	岡山県高等学校長協会会長	長尾俊男	福武書店社長室室長	
	長尾俊男	福武書店社長室長	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長	
	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長	平山武茂	福武書店役員	
	平山要	岡山県小学校長会会長	横野昭輝	岡山県高等学校長協会会長	
	平山武茂	福武書店役員	松井朗	岡山県中学校長会会長	
	森嘉吉	岡山県私学協会会長	森嘉吉	岡山県私学協会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	蓬郷三郎	福武書店顧問	蓬郷三郎	福武書店顧問	
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	
	泉本哲夫	山陽新聞社論説委員	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長	
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	
	大塚彌太郎	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長	
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	
	加計勉	岡山理科大学総長	加計勉	岡山理科大学総長	
	片山嘉雄	津山工業高等専門学校校長	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長	
	杉富士雄	岡山大学文学部教授	河本真佐夫	岡山県PTA連合会会長	
	友野澄雄	岡山県立博物館館長	杉富士雄	中国短期大学学長	
	永井三郎	福武書店取締役	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長	
	原田幸春	福武書店部長	永井三郎	福武書店取締役	
	春木伸正	岡山県PTA連合会会長	原田幸春	福武書店部長	
	福島保	福武書店部長	福島保	福武書店部長	

昭和63年度(1988)			平成元年度(1989)		
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長	
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	福武書店社長	
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問	
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授	
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長	
	宮地暢夫	福武書店顧問	宮地暢夫	福武書店顧問	
理事	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長	幾田尚	岡山県学校図書館協議会会長	
	杉山定雄	岡山県学校図書館協議会会長	金田睦弘	岡山県小学校長会会長	
	中山重義	岡山県高等学校長協会会長	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
	長尾俊男	福武書店社長室室長	中山重義	岡山県高等学校長協会会長	
	平山武茂	福武書店役員	長尾俊男	福武書店社長室室長	
	古河三朗	岡山県小学校長会会長	平山武茂	福武書店取締役	
	松井朗	岡山県中学校長会会長	福武信子	会社役員	
			渡辺孝夫	岡山県中学校長会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	蓬郷三郎	福武書店監査役	蓬郷三郎	福武書店監査役	
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	
	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長	泉本哲夫	福武書店岡山教育研究所顧問	
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大嶋知之	福武書店部長	
	大嶋知之	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長	
	大塚彌太郎	福武書店部長	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	片山嘉雄	岡山理科大学総長	
	加計勉	岡山理科大学総長	菅野邦夫	就実女子大学文学部部長	
	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長	杉富士雄	岡山県町村教育長協議会会長	
	杉富士雄	中国短期大学学長	友野澄雄	中国短期大学学長	
	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長	永井三郎	岡山大安寺高等学校校長	
	永井三郎	福武書店取締役	原田幸春	福武書店常務取締役	
	原田幸春	福武書店部長	平松幹章	福武書店部長	
	平松幹章	岡山県PTA連合会会長		岡山県PTA連合会会長	

平成2年度(1990)					平成3年度(1991)				
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長			谷口澄夫	元岡山大学学長			
副理事長	福武總一郎	福武書店社長			福武總一郎	福武書店社長			
常任理事	小野啓三	福武書店顧問			坂田注	岡山大学教育学部教授			
	坂田注	岡山大学教育学部教授			竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			松浦正義	岡山大学教育学部教授			
	宮地暢夫	福武書店顧問			宮地暢夫	福武書店顧問			
理事	幾田尚	岡山県学校図書館協議会会長			佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			
	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長			坪井克己	岡山県学校図書館協議会会長			
	須賀明	岡山県中学校長会会長			中山晴人	岡山県中学校長会会長			
	中山重義	岡山県高等学校長協会会長			長尾俊男	福武書店社長室室長			
	長尾俊男	福武書店社長室室長			則武愛子	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	平山武茂	福武書店取締役			福武信子	会社役員			
	福武信子	会社役員			藤原克己	岡山県小学校長会会長			
	分島久志	岡山県小学校長会会長			村岡英臣	福武書店取締役			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	蓬郷三郎	福武書店監査役			蓬郷三郎	福武書店監査役			
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授			秋山和夫	岡山大学教育学部教授			
	泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			
	植田博文	福武書店部長			大嶋知之	福武書店部長			
	大嶋知之	福武書店部長			大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			加計勉	岡山理科大学総長			
	加計勉	岡山理科大学総長			菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			
	菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			
	杉慎吾	岡山県私学協会副会長			竹内哲郎	就実短期大学部長			
	杉富士雄	中国短期大学学長			永井三郎	福武書店常務取締役			
	佃幸男	岡山朝日高等学校校長			原田幸春	福武書店部長			
	永井三郎	福武書店常務取締役			福井正晃	岡山県PTA連合会会長			
	原田幸春	福武書店部長			三戸信子	岡山市教育センター指導囑託			
	福井正晃	岡山県PTA連合会会長			八木智	福武書店次長			
	三戸信子	岡山市教育センター指導囑託							

平成4年度(1992)					平成5年度(1993)				
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長			谷口澄夫	元岡山大学学長			
副理事長	福武總一郎	福武書店社長			福武總一郎	福武書店社長			
常任理事	坂田注	岡山大学教育学部教授			坂田注	岡山県立大学教授			
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			松浦正義	岡山大学教育学部教授			
	松浦正義	岡山大学教育学部教授			宮地暢夫	岡山県立美術館館長			
	宮地暢夫	福武書店顧問			森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長			
理事	佐藤博文	岡山県中学校長会会長			近藤昂	岡山県中学校長会会長			
	佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			高杉早苗	岡山県小学校長会会長			
	内藤昇之助	岡山県小学校長会会長			佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			
	長尾俊男	福武書店社長室室長			長尾俊男	福武書店社長室室長			
	服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長			服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	福武信子	会社役員			福武信子	会社役員			
	皆木徹典	岡山県学校図書館協議会会長			皆木徹典	岡山県学校図書館協議会会長			
	村岡英臣	福武書店取締役			村岡英臣	福武書店取締役			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	蓬郷三郎	福武書店監査役			蓬郷三郎	福武書店監査役			
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授			秋山和夫	岡山大学教育学部教授			
	泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			
	大嶋知之	福武書店部長			大嶋知之	福武書店部長			
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	加計勉	岡山理科大学総長			加計勉	岡山理科大学総長			
	菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			
	杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			竹内哲郎	就実短期大学教授			
	竹内哲郎	就実短期大学教授			永井三郎	福武書店常務取締役			
	永井三郎	福武書店常務取締役			原田幸春	福武書店部長			
	原田幸春	福武書店部長			三戸信子	岡山市教育センター指導囑託			
	三戸信子	岡山市教育センター指導囑託			宮本久雄	岡山県町村教育長協議会会長			
	森学	岡山県PTA連合会会長			森学	岡山県PTA連合会会長			
	八木智	福武書店次長			八木智	福武書店次長			

平成6年度(1994)					平成7年度(1995)				
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長			谷口澄夫	元岡山大学学長			
副理事長	福武總一郎	福武書店社長			福武總一郎	BC代表取締役社長			
常任理事					長尾俊男	BC社長室室長			
理事	方川淳	岡山県小学校長会会長			國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長			
	坂田注	岡山県立大学教授			坂田注	岡山県立大学教授			
	田中泰彦	岡山県中学校長会会長			佐藤信	BC取締役			
	戸村彰孝	岡山県高等学校長協会会長			佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長			親亮一	岡山県中学校長会会長			
	長尾俊男	福武書店社長室室長			中野宏	岡山県学校図書館協議会会長			
	服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長			中村通郎	岡山県小学校長会会長			
	福武信子	会社役員			福武信子	会社役員			
	松浦正義	岡山大学教育学部教授			松浦正義	岡山大学教育学部教授			
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長			宮地暢夫	岡山県立美術館館長			
	村岡英臣	福武書店取締役			森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長			
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長							
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	蓬郷三郎	福武書店監査役			村岡英臣	BC常勤監査役			
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授			秋山和夫	山陽学園大学副学長			
	石井稔	山陽放送専務取締役			石井稔	山陽放送専務取締役			
	大嶋知之	福武書店部長			今村庸夫	BC中学部部長			
	大塚彌太郎	福武書店部長			大塚彌太郎	BC総務部部長			
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			加賀道郎	岡山県私学校長会会長			
	加賀道郎	岡山県私学校長会会長			片山肇	岡山県PTA連合会会長			
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長			神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長			竹内哲郎	就実短期大学教授			
	竹内哲郎	就実短期大学短大部長			戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	永井三郎	福武書店専務取締役			永井三郎	BC専務取締役			
	堀完一	岡山県町村教育長協議会会長			原田幸春	BC高校部部長			
	森学	岡山県PTA連合会会長			堀完一	岡山県町村教育長協議会会長			
	八木智	福武書店次長							

平成8年度(1996)					平成9年度(1997)				
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長			谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長			
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長			福武總一郎	BC代表取締役社長			
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問			長尾俊男	BC社長室顧問			
理事	國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長			大山晋右	岡山県学校図書館協議会会長			
	坂田注	岡山県立大学教授			小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	佐藤信	BC取締役			黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長			
	佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長			小坂光一	岡山県小学校長会会長			
	玉光源爾	岡山県中学校長会会長			坂田注	岡山県立大学教授			
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長			佐藤信	BC取締役			
	福武信子	会社役員			福武信子	会社役員			
	松浦正義	岡山大学教育学部教授			古市誠嗣	岡山県高等学校長協会会長			
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長			松浦正義	就実女子大学教授			
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長			宮地暢夫	岡山県立美術館館長			
	森谷浩平	岡山県小学校長会会長			吉廣俊三	岡山県中学校長会会長			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	村岡英臣	BC常勤監査役			植田博文	BC常勤監査役			
評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長			秋山和夫	山陽学園大学副学長			
	石井稔	山陽放送代表取締役社長			石井稔	山陽放送代表取締役社長			
	稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長			稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長			
	今村庸夫	BC中学部部長			今村庸夫	BC中学部部長			
	小川克保	BC総務部部長			小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長			
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長			片山肇	岡山県PTA連合会会長			
	片山肇	岡山県PTA連合会会長			小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授			
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授			高旗正人	岡山大学教授			
	高旗正人	岡山大学教授			田村幸久	BC社長室室長			
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	永井三郎	ベネッセグループ共済会理事長			永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長			
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長			永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	西本達二	岡山県私学協会会長			原田幸春	BC高校部部長			
	原田幸春	BC高校部部長			丸山哲朗	岡山県私学校長会会長			

平成10年度(1998)			平成11年度(1999)		
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長	
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長	
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問			
理事	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長	
	岸本憲二	岡山県高等学校長協会会長	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	
	楠田廉	岡山県中学校長会会長	坂田注	岡山大学名誉教授	
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	佐藤信	BC取締役	
	坂田注	岡山大学名誉教授	雙知正憲	岡山県小学校長会会長	
	佐藤信	BC取締役	長尾俊男	前BC社長室室長	
	福武信子	会社役員	難波征進	岡山県中学校長会会長	
	松浦正義	就実女子大学教授	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武信子	南方エンタープライズ代表取締役会長	
	渡邊勝也	岡山県小学校長会会長	松浦正義	就実女子大学教授	
			宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長	秋山和夫	山陽学園大学学長	
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長	
	今村庸夫	BC小中学校事業部部長	今村庸夫	BC文教開発部部長	
	榎本大一	岡山県町村教育長協議会会長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	片山肇	岡山県PTA連合会会長	
	片山肇	岡山県PTA連合会会長	菅野増男	岡山県町村教育長会会長	
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学教育学部教授	
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	
	田村幸久	BC社長室室長	田村幸久	BC社長室室長	
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	原田幸春	BC S&TSカンパニー本部長代行	原田幸春	BC東京支社長	

平成12年度(2000)			平成13年度(2001)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
理事	川井章三郎	岡山県学校図書館協議会会長	川上洋一	岡山県中学校長会会長	
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	国司宏	岡山県小学校長会会長	
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授	
	重利忠弘	岡山県中学校長会会長	平岩武	岡山県高等学校長協会会長	
	徳田公裕	岡山県小学校長会会長	平山武茂	BC取締役	
	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	
	平山武茂	BC取締役	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	森川直	岡山大学副学長	
	森川直	岡山大学副学長	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長	
	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長	山根健	岡山県学校図書館協議会会長	
	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー本部所屬長	明田英治	BC小中学校事業部マネージャー	
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長	
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	小澤定子	元ノートルダム清心女子大学助教授	
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	加計孝太郎	加計学園理事長	
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長	高旗正人	岡山大学教育学部教授	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	吉田耕二	BC社長室室長	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長	
			吉田耕二	BC秘書室室長	

平成14年度(2002)			平成15年度(2003)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
理事	大飼舜也	岡山県小学校長会会長	大嶋俊宣	岡山県学校図書館協議会会長	
	海本博允	岡山県高等学校長協会会長	奥津竹彦	岡山県高等学校長協会会長	
	大嶋俊宣	岡山県図書館協議会会長	坂田注	岡山大学名誉教授	
	坂田注	岡山大学名誉教授	中田勲	岡山県中学校長会会長	
	平山武茂	BC取締役	平山武茂	BC顧問	
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	森川直	岡山大学副学長	森川直	岡山大学教育学部長	
	森崎岩之助	岡山県総合文化センター顧問	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
	守屋宣男	岡山県中学校長会会長	山本比香流	岡山県小学校長会会長	
	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	吉澤佳子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー長	明田英治	BC執行役員 文教カンパニープレジデント	
	岡昌利	岡山県町村教育長会副会長	小坂進	岡山県町村教育長会副会長	
	加計孝太郎	加計学園理事長	加計孝太郎	加計学園理事長	
	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学名誉教授	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	
	原田三代治	岡山県私学協会会長	原田三代治	岡山県私学協会会長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長	

平成16年度(2004)			平成17年度(2005)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
常任理事			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
理事	明田英治	BC執行役員	明田英治	BC執行役員	
	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長	
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授	
	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授	
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	
	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	森川直	岡山大学教育学部長	
	森川直	岡山大学教育学部部長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	植田博文	元BC常勤監査役	大塚彌太郎	元BC社長室室長	
評議員	家光大蔵	岡山県小学校長会会長	大山正治	岡山県中学校長会会長	
	小坂進	岡山県町村教育長会副会長	岡崎明宏	岡山県小学校長会会長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	岡田浩明	岡山県高等学校長協会会長	
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	佐藤元信	岡山県私学協会会長	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	佐藤元信	岡山県私学協会会長	
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	
	日笠紘	岡山県高等学校長協会会長	平野尚哉	岡山県町村教育長会副会長	
	福田宇一	岡山県中学校長会会長	三村玲子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
	三村玲子	岡山県国公立幼稚園長会会長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	山本照雅	岡山県PTA連合会会長	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	山本照雅	岡山県PTA連合会長	
			吉田耕二	BC秘書室室長	

平成18年度(2006)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦 坂田注 佐藤信 高旗正人 沼本和子 福武れい子 森川直	山陽放送代表取締役社長 岡山大学名誉教授 ベル学園副理事長 中国短期大学教授・岡山大学名誉教授 ノートルダム清心女子大学名誉教授 フェイスコーポレーション代表取締役社長 岡山大学教育学部学長
監事	西田三千代 大塚彌太郎	西田法律事務所弁護士 元BC社長室室長
評議員	明田英治 門野八洲雄 小寺聰 小山悦司 佐川弘治郎 佐藤元信 柴岡元 武泰稔 永井三郎 菱川成雄 三村玲子 柳二郎 山根文男 山本照雅 吉田耕二	BC執行役員 岡山県教育委員会教育長 山陽新聞社論説顧問 倉敷芸術科学大学教授 岡山県中学校長会会長 岡山県私学協会会長 岡山県高等学校長会会長 岡山県町村教育長会会長 元BC専務取締役 岡山県小学校長会会長 岡山県国公立幼稚園長会会長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議会会長 岡山県PTA連合会長 BC渉外部担当部部長

役員・評議員一覧／財団法人福武文化振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

平成9年度(1997)			平成10年度(1998)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問	長尾俊男	BC社長室顧問
理事	井上元 柴田一 高橋克明 福武れい子 宮地暢夫 目瀬守男	山陽新聞社取締役論説主幹 就実女子大学文学部部長 岡山県立大学学長 会社役員 岡山県立美術館館長 岡山大学農学部教授	井上元 柴田一 高橋克明 福武れい子 宮地暢夫 目瀬守男	山陽新聞社取締役事業局長 就実女子大学文学部部長 岡山県立大学学長 会社役員 岡山県立美術館館長 美作女子大学学長
監事	甲元恒也 永井三郎	弁護士 ベネッセグループアップルセンター理事長	甲元恒也 永井三郎	弁護士 ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子 黒瀬定生 谷口弥生 富岡要 戸村彰孝 丹羽英喜 福武信子 福武美津子 三宅親連 山内一則	岡山外語学院学院長 岡山県教育委員会教育長 岡山旭川ルネサンス代表 就実学園専務理事 岡山市教育委員会教育長 設計家 会社役員 会社役員 前香川県香川郡直島町長 岡山県総合文化センター館長	井上真澄 片山浩子 黒瀬定生 谷口弥生 富岡要 戸村彰孝 丹羽英喜 福武信子 福武美津子 三宅親連	岡山県総合文化センター館長 岡山外語学院学院長 岡山県教育委員会教育長 岡山旭川ルネサンス代表 就実学園専務理事 岡山市教育委員会教育長 設計家 会社役員 会社役員 前香川県香川郡直島町長

平成11年度(1999)			平成12年度(2000)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社取締役編集局長	越宗孝昌	山陽新聞社常務取締役編集局長
	柴田一	就実女子大学文学部部長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山県立大学学長	高橋克明	岡山大学名誉教授
	長尾俊男	前BC社長室長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	福武れい子	南方エンタープライズ代表取締役社長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	目瀬守男	美作女子大学学長
	目瀬守男	美作女子大学学長		
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	岡山県立博物館館長	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	葛原克人	岡山県立博物館館長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	田村幸久	BC社長室室長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	富岡要	就実学園専務理事	玉光源爾	岡山市教育委員会教育長
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	吉田耕二	BC社長室室長
	福武美津子	南方エンタープライズ取締役		

平成13年度(2001)			平成14年度(2002)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役
	柴田一	就実女子大学学長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	目瀬守男	美作女子大学学長	目瀬守男	美作女子大学学長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	谷口弥生	音楽プロデューサー	谷口弥生	音楽プロデューサー
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	松井新一	岡山県立博物館館長	松井新一	岡山県立博物館館長
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長

平成15年度(2003)			平成16年度(2004)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	
	柴田一	就実大学学長	柴田一	就実大学学長	
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授	
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
	目瀬守男	美作大学学長	目瀬守男	美作大学学長	
			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
監事	甲元恒也	弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長	
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学教授	
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	高山雅之	岡山県郷土文化財団常務理事	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	
			玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役			
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	能登原巧	岡山県立博物館館長	
	松井新一	岡山県立博物館館長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長	

平成17年度(2005)			平成18年度(2006)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長	
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
理事	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	
	柴田一	元就実大学学長	佐藤信	ベル学園副理事長	
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	柴田一	元就実大学学長・就実大学名誉教授	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	
	目瀬守男	美作大学学長	本田茂伸	元岡山県副知事	
			目瀬守男	美作大学学長	
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	元BC専務取締役	
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	芦田和正	岡山県立博物館館長	
	片山浩子	岡山外語学院学院長	臼井洋輔	吉備国際大学教授	
	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	片山浩子	岡山外語学院学院長	
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長	
	能登原巧	岡山県立博物館館長	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問	
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	
			山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	
	吉田耕二	BC秘書室室長			
			吉田耕二	BC渉外部担当部部長	

役員・評議員一覧／財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

平成19年度(2007)			平成20年度(2008)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦	山陽放送相談役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	福武れい子	efu代表取締役社長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	目瀬守男	美作大学名誉学長
	坂田注	岡大名誉教授		
	佐藤信	ベル学園副理事長		
	柴田一	元就実大学学長		
	高旗正人	中国短期大学子ども学部長・岡山大 学名誉教授		
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授		
	福武純子	efu取締役		
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長		
監事	目瀬守男	美作大学学長		
	森川直	岡山大学教育学部教授		
評議員	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	大塚彌太郎	元BC社長室長	沼澄夫	沼税理士事務所代表

評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	片山浩子	岡山外語学院学院長	大倉徹彦	山陽放送相談役
	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	片山浩子	岡山外語学院学院長
	近藤安个	元ノートルダム清心女子大学教授	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	佐藤元信	岡山県私学協会会長	福武純子	efu取締役
	高山雅之	岡山県郷土文化財団参与	千葉喬三	岡山大学学長
	武泰稔	岡山県町村教育長会会長	福武美津子	efu取締役
	谷一尚	オリエント美術館館長	宮野正司	前岡山県教育委員会教育長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表		
評議員	永井三郎	元BC専務取締役		
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役		
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役		
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長		
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長		
	松本芳範	BC執行役員常務		

平成21年度(2009)			平成22年度(2010)	
理事長	福武總一郎	BH取締役会長	福武總一郎	BH取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
	目瀬守男	美作大学名誉学長	目瀬守男	美作大学名誉学長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表	沼澄夫	沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu取締役	下妻道郎	efu取締役
	千葉喬三	岡山大学学長	千葉喬三	岡山大学学長
	福武美津子	efu代表取締役社長	福武美津子	efu代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長

評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu取締役	下妻道郎	efu取締役
	千葉喬三	岡山大学学長	千葉喬三	岡山大学学長
	福武美津子	efu代表取締役社長	福武美津子	efu代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu取締役	下妻道郎	efu取締役
	千葉喬三	岡山大学学長	千葉喬三	岡山大学学長
	福武美津子	efu代表取締役社長	福武美津子	efu代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長

役員・評議員一覧／公益財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

平成24年度(2012)			平成25年度(2013)	
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長	福武總一郎	BH 取締役会長
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	千葉喬三	就実学園理事長
	目瀬守男	美作大学名誉学長	蛭田二郎	彫刻家・日本芸術院会員
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表	沼澄夫	瀬戸内会計事務所税理士
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	元吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu 取締役	島津義昭	岡山空港ターミナル代表取締役社長
	千葉喬三	就実学園理事長・前岡山大学学長	下妻道郎	efu 取締役
	福武美津子	efu 代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	松本芳範	BH 常勤監査役

平成23年度(2011)		
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
	目瀬守男	美作大学名誉学長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu 取締役
	千葉喬三	就実学園理事長・前岡山大学学長
	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長

平成26年度(2014)			平成27年度(2015)		
名誉顧問			福武總一郎	BH 最高顧問	
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	松浦俊明	efu 取締役	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	
理事	臼井洋輔 片山浩子 千葉喬三	元吉備国際大学教授 アジアの風岡山外語学院理事長 就実学園理事長	臼井洋輔 片山浩子 千葉喬三	元吉備国際大学教授 アジアの風岡山外語学院理事長 就実学園理事長	
監事	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士	
評議員	鍵岡正謹 越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司	岡山県立美術館館長 山陽新聞社代表取締役会長 岡山空港ターミナル代表取締役社長 efu 取締役 山陽放送代表取締役社長 efu 代表取締役社長 岡山大学副学長 BH 常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長	越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司 守安収	山陽新聞社代表取締役会長 岡山空港ターミナル代表取締役社長 efu 取締役 山陽放送代表取締役社長 efu 代表取締役社長 岡山大学副学長 BH 常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長 岡山県立美術館館長	

平成28年度(2016)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問
理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
副理事長	松浦俊明	efu 取締役
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局長
理事	片山浩子 谷一尚 千葉喬三	アジアの風岡山外語学院理事長 林原美術館館長・山陽学園大学 副学長 加計学園相談役・前就実学園理事長
監事	佐藤由美子 沼澄夫	佐藤法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表
評議員	越宗孝昌 下妻道郎 中島義雄 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司 守安収	山陽新聞社代表取締役会長 efu 取締役 ナカシマホールディングス常務取締役 山陽放送代表取締役社長 efu 代表取締役社長 岡山大学副学長 BH 常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長 岡山県立美術館館長

おわりに

30年。

私ども福武教育文化振興財団が1986年に発足して30年が経過しました。次の30年にも通用する30のメッセージ、財団活動でお世話になった方々の珠玉の言葉を絞りこんで、記念誌にしようと考えました。

いずれの方の言葉も私たちが出会った地域の人々、教育、文化を通じたさまざまな言葉です。豊かな未来を享受できる可能性に満ちたものであります。本誌を手にとられたあなたへ、活動の指針、エールとして受けとめていただければと思います。

人々が暮らし集うこの社会がより一層豊かで実り多いものとなるよう、私ども財団では教育、文化を中心とした様々な助成活動を行い、地域で素晴らしい活動をされる方たちを顕彰してまいりました。30年間の活動で地域の皆様の背中を押すことがわずかでも出来たのではないかと思います。

私ども財団の使命は「地域づくり 人づくり」。

中心となる事業は「公募助成」です。今まで助成を受けるなど考えたことがない方に一人でも多く参画していただきたい。地域の魅力をつくるのは、あなた。あなた自身にも是非新しい一步を踏み出して欲しい。何かをはじめ、何かに挑戦してほしい。そんな思いをこめて、29年度から公募助成のキャッチフレーズを「あなたの はじめる ひろげる はっしんするを応援します」としました。

財団は、地域をまわって活動する方々を増やし、様々な交流機会をもうけ、様々なサポートをする役目です。これからも、新たな未来に向けて、倦まず弛まず、地道に積み上げてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本誌の制作のみならず、財団活動でお世話になりました方々へ、多大なるご協力をいただきましたことを深く感謝しております。今後とも宜しく願いいたします。

2017年1月

公益財団法人 福武教育文化振興財団
事務局長 小川隆正

『and F』とは……

財団を身近に感じていただける愛称のようなものとして名付けたものです。Fは福武教育文化振興財団のこと、そしてandの前にくるのは、地域で活動するみなさまをイメージしています。地域の一人ひとりに寄り添う財団でありたいという願いを込めています。

公益財団法人福武教育文化振興財団
設立30周年記念誌

and F

2017年1月14日 発行

編・著 公益財団法人福武教育文化振興財団
発 行 公益財団法人福武教育文化振興財団
〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
(株) ベネッセコーポレーション本社3階
TEL : 086-221-5254 FAX : 086-232-3190
URL : <http://www.fukutake.or.jp/ec>
E-MAIL : eczaidan@fukutake.or.jp

編集協力・制作
株式会社吉備人

アートディレクション&デザイン
佐藤豪人 (HIDETO SATO DESIGN)

撮影協力 青地大輔／田中園子

印 刷 研精堂印刷株式会社

製 本 日宝総合製本株式会社
